

# 平成30年度 社会福祉法人 鈴鹿聖十字会 事業報告書

## I. はじめに

社会福祉法人鈴鹿聖十字会は、福祉や医療サービスを必要とする方々に寄り添い、その声に耳を傾け、人間性、尊厳、さらにはその方の生きる権利を最大限に尊重する医療・保健・福祉サービスを総合的に提供できる体制を整備し、地域住民の安心を生み出す福祉医療の拠点となることを目標とし、平成30年度は以下のことを実施した。

## II. 平成30年度実施事業

### 1. 社会福祉事業

#### (1) 第1種社会福祉事業

- ・特別養護老人ホームの経営  
(鈴鹿聖十字の家、菰野聖十字の家、聖十字四日市老人福祉施設)
- ・障害者支援施設の経営  
(障害者支援施設 菰野聖十字の家)
- ・ケアハウスの経営  
(ケアハウス 白百合ハイツ)

#### (2) 第2種社会福祉事業

- ・認定こども園の経営 (聖マリアこども園)
- ・介護老人保健施設の経営 (聖十字ハイツ)
- ・老人居宅介護等事業の経営 (鈴鹿聖十字の家)
- ・老人短期入所事業の経営 (鈴鹿聖十字の家・菰野聖十字の家・聖十字四日市老人福祉施設)
- ・障害福祉サービス事業の経営 (菰野聖十字の家)
- ・老人デイサービスセンターの経営 (聖十字四日市老人福祉施設)
- ・老人介護支援センターの経営 (聖十字四日市老人福祉施設)
- ・病児保育事業の経営 (聖マリアこども園)
- ・特定相談支援事業の経営 (障害者相談支援事業所菰野聖十字の家)
- ・障害児相談支援事業の経営 (障害者相談支援事業所菰野聖十字の家)

### 2. 公益事業

- ・診療所の経営 (菰野聖十字の家診療所)
- ・居宅介護支援事業 (聖十字四日市老人福祉施設)
- ・訪問看護事業・介護予防訪問看護事業 (事業休止中)

### Ⅲ. 事業の主な動き

#### 1. 法人全体の主な動き

##### ① 特別養護老人ホーム・障害者支援施設「菰野聖十字の家」の個室ユニット化改築工事の実施

昭和 54 年に建築された「菰野聖十字の家」は、利用者様へのより快適な生活環境と最新のサービス提供の実現を目指し、新たに 6 階建ての個室ユニット型施設（特別養護老人ホーム 60 床、障害者支援施設 60 床）の増改築工事を開始した。新施設オープンは令和元年 11 月の予定である。

##### ② 三重聖十字病院の廃止

三重聖十字病院は、平成 17 年より緩和ケア専門病院として運営を続けてきたが、圏域内の総合病院が 29 年度、新たに緩和ケア病棟を設置した影響等もあり、1 年間の事業休止の後、平成 30 年 11 月 30 日をもって病院を廃止した。今後の用途としては、介護医療院を基本に、新たな事業展開のための諸準備を進めている。

##### ③ 地域リハビリテーション推進研修会「呼吸リハビリ研修 - 在宅高齢者に対する喀痰吸引」の開催

法人の地域貢献活動の一環として、地域の医療福祉関係者を対象に、地域の医療、福祉、リハビリ関係者に対し、喀痰吸引の基礎、呼吸リハビリテーションの実際および患者の病態、リスク管理についての研修を実施し、地域住民の健康づくりに寄与するとともに、医療福祉関係者およびリハビリテーション関連職種との地域連携を保ち、呼吸リハビリテーションの理論や具体的方法についての知識と連携および実践力を高めることを目的とし、研修会を開催した。内容は現場の最前線で実際に診療や指導をなされている先生方の具体的な指導内容であり、各参加者にとっても有意義な内容であったとの声が多数聞かれた。また、参加者の状況については、各医療機関、福祉事業所で活躍されている専門職がバランスよく集まったこともあり、貴重な意見交換や情報収集の場ともなった。

研修名：地域リハビリテーション推進研修会「呼吸リハビリ研修」

講師：井上 登太氏（医師、呼吸ケアと誤嚥ケア学会会長）

鈴木 典子氏（理学療法士、みえ呼吸嚥下リハビリクリニック部長）

高橋 猛氏（理学療法士、鈴鹿医療科学大学教授）

日時：平成 31 年 1 月 26 日（土） 午前 11 時～午後 4 時

会場：聖十字看護専門学校 講堂

参加者：37 名（参加者 34 名、講師 3 名）

参加者内訳：理学療法士 7 名、作業療法士 6 名、言語聴覚士 5 名、

看護師 5 名、介護支援専門員 2 名、介護福祉士 3 名、学生 6 名

### ③ 法人内マネジメントシステムを活用した客観的根拠に基づく事業経営の実施

- (1) 施設整備・サービスの充実
- (2) 教育・研修の充実と職員のレベルアップ
- (3) リスク管理の強化
- (4) 財務・経理管理の改善
- (5) 給食センター・洗濯センター運営体制の充実
- (6) 広報活動（ホームページなど）の充実

上記の項目について、法人および各施設で具体的な取り組みを進めた。

### ④ 教育の充実・経営基盤及び各施設間連携の強化

法人全体で実施する研修、そしてその具体的な展開のための各施設での教育訓練を積極的に実施し、社会福祉法人職員として、利用者の人権を守り、地域でのより良い生活を実現できる知識・技術の獲得を目指した。また各施設長による連携会議を毎月実施し、各施設間のマネジメント手法の統一を図るとともに、職員間において技術の研鑽や相互牽制が可能となるシステムの構築を進めていった。

そのさらなる充実のために、理事長、各施設長による「施設長会議」を毎月開催し、各施設の課題や利用者の満足度向上、職員の教育方法、さらには稼働率アップのための具体的方法について検討するとともに、各施設での取り組み内容や、成功事例等を積極的に共有し、的確な事務処理、稼働率の管理を行うための協議を実施し、利用者に対する具体的なサービスの資質向上と、コンプライアンスの徹底を図った。

## 2. 会議

当法人の適切な運営のために次の会議を開催した。

- (1) 理事会 年5回（5月、7月、9月、11月、3月）
- (2) 評議員会 年2回（6月、3月）

## 3. 教育・研究

- (1) 施設長等を対象に、マネジメント能力向上を図るための研修会議を毎月開催した。
- (2) 職員の資質向上をめざし、各施設でテーマ別に専門研修を実施した。

## 4. 監査

定款・諸規定等・県の指導に従い以下のとおり監査を実施した。

- (1) 監事監査（5月）、税理士監査（5月）
- (2) 三重県指導監査（8月）

## 5. 広報

機関紙およびインターネット等を活用して、情報公開を行うとともに、福祉・医療に関する理解と参加を促進する広報活動を行った。（菰野聖十字の家『そよ風』・鈴鹿聖十

字の家『すばる』・聖十字ハイツ『もみの木』の発行、法人ホームページなど)

#### 6. 地域との連携・交流・ボランティアの受け入れ

地域包括ケアの具体的な推進を目指し、菰野町で開催される「地域ケア会議」に参加し、地域での情報共有および連携を図った。さらに、地域の中では、地域住民の方々やボランティアの方とともに支え合いの仕組みを構築することができるよう、以下のことを実施した。

- |                   |             |
|-------------------|-------------|
| ① 5月家族交流会         | (5月3日)      |
| ② 盆踊り             | (7月21日)     |
| ③ 9月家族交流会         | (9月15日、16日) |
| ④ こども園・施設・地域合同運動会 | (10月8日)     |
| ⑤ ホーム喫茶           | (毎月1回)      |

#### IV. 新規事業の展開

1. 法人が持つ様々な社会資源や人的資源を有効活用し、地域での住みよい生活の実現に向けての新たなサービス展開の具体的検討を進めていく。特に地域再生法に基づいたこの地域の再生手続きを始めるため、地域再生協議会を組織するための要請書ならびに地域再生推進法人指定申請書を菰野町に提出し、諸準備を実施した。

# 平成30年度 特別養護老人ホーム 鈴鹿聖十字の家 事業報告書

事業内容：特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設） 定員 60 名  
老人短期入所事業（短期入所生活介護） ※空床利用型  
居宅介護支援

## I. 施設運営全般

「施設を利用される皆様が安全に、安心して、楽しく生活していただくために、優しく、親切で丁寧なサービスを提供する」ことを基本方針として、事業を行った。

### 1. 「安全」について

- (1) 感染症予防委員会が策定した予防計画を全職員が再確認し、継続的に実行することにより、利用者様の感染症はゼロにすることができた。
- (2) 事故の発見から報告、発生状況と再発防止策を全職員で共有し、介護事故予防委員会を中心に取り組んだ。介護ロボット（センサーベッド）を導入したほか、軽微なものまですべて報告・共有できる仕組みが定着した。

### 2. 「安心」について

- (1) 入居者の皆様に安心して生活していただくために、各ユニットにおいて様々な取り組みを計画し、実践していった。その実施状況に関しては、各ユニットの事業報告に記載あり。また職員の資質向上のため8月より毎月内部研修を実施した。外部研修についても例年以上に参加することができた。
- (2) 「身体拘束の全廃」を目指し、身体拘束廃止委員会を中心として取り組んだ。常に身体拘束を解除できるように検討し、拘束時間の短縮や解除を実施した。

### 3. 「楽しく」について

- (1) ユニット内における季節の催しや食事会、お菓子作り、誕生会などを行った。
- (2) ユニット間の交流行事として、各職種連携のもと、喫茶行事を2階共用部にて毎月実施した。
- (3) お花見、喫茶店、「いきいき介護フェスタ」、鈴亀老施協交流会等の外出行事を行った。もう少し頻繁に外出行事を実施したかったが、職員不足によりなかなか実施できなかった。
- (4) 施設敷地内の菜園にて野菜作りや花の栽培、近隣の散策などを行い、入居者の方々が自然と触れ合える機会を提供した。

## II. 運営上の目標の達成状況

### 1. 運営安定化のための稼働率向上・維持

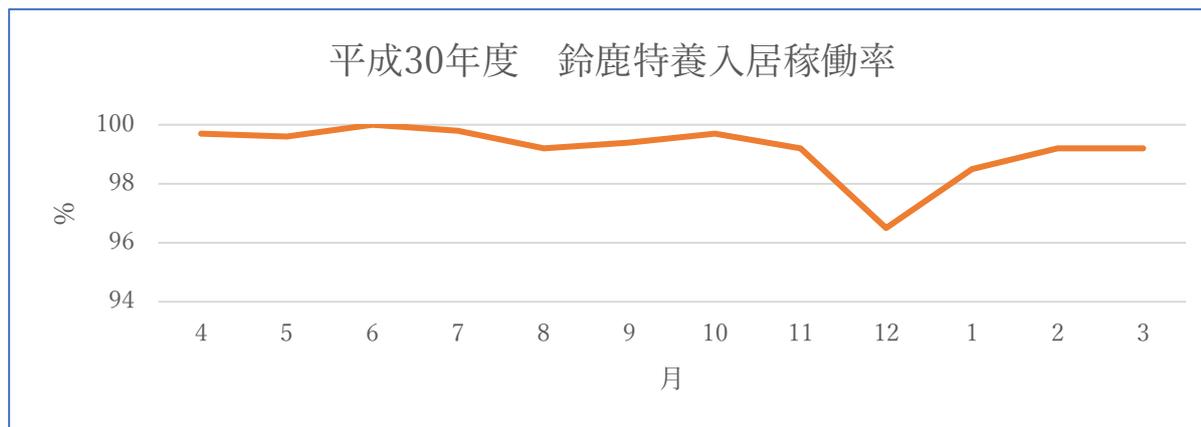
年間稼働率目標を98%と定め、受け入れ促進を行った。

年間稼働率実績は99.2%となり、大幅な目標達成となった。

空床利用型短期入所生活介護（ショートステイ）の利用も行い稼働率の上昇に貢献した。

鈴鹿聖十字の家 平成30年度 稼働率の状況（単位：％）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
稼働率	99.7	99.6	100	99.8	99.2	99.4	99.7	99.2	96.5	98.5	99.2	99.2



## 2. 職員の資質向上のための取り組み

施設内研修（伝達研修）を年10回実施した。（講師：施設長）

8月：虐待の防止・身体拘束の廃止・不適切ケアの撲滅

9月：ハラスメントについて

10月：①認知症に関する知識及び認知症ケアについて

②看取りについて

11月：①感染症の発症及び食中毒の予防及び蔓延の防止について

②権利擁護について

12月：医療に関する知識・褥瘡予防について

1月：事故の発生予防・事故の発生等緊急時の対応について

2月：利用者のプライバシー保護の取り組みについて

3月：身体拘束廃止について

施設外研修への参加状況は以下の通りであった。

- 平成30年6月19日 安全運転管理者講習 介護主任1名参加

於：鈴鹿地域職業訓練センター

- 平成30年7月12日 H30年度介護報酬改定伝達研修会 管理栄養士1名

栄養ケア計画書作成の演習

- 於：三重県社会福祉会館 講堂 3階  
 ・平成30年9月13日 平成30年度新規事業場・介護事業場の就業環境整備  
 セミナー 施設長1名参加  
 於：三重私学青少年会館3階 大研修室
- ・平成30年10月3日 権利擁護に関する研修会 生活相談員1名参加  
 於：三重県教育文化会館5階 大会議室
- ・平成30年10月5日 第二回職員研修会（鈴亀老協） 介護職員1名参加  
 於：鈴鹿市社会福祉協議会 中会議室
- ・平成30年10月10日 第一回「豊かな介護人材が揃う魅力ある職場作り  
 セミナー」 施設長1名参加  
 於：三重県教育文化会館 第5会議室
- ・平成30年10月11日 平成30年度介護認定調査員現任者研修会  
 介護支援専門員1名参加  
 於：鈴鹿市市役所 本館 大会議室
- ・平成30年10月16日 介護労働者雇用管理責任者講習 施設長1名参加  
 於：三重県教育文化会館 第二会議室
- ・平成30年11月12日 「食中毒防止対策講習会」 調理員1名参加  
 於：アストホール（アスト津4階）
- ・平成30年11月14日 H30年度キャリアパス生涯研修課程（初心者コース）  
 介護職員1名参加  
 於：三重県社会福祉会館 3階 講堂
- ・平成30年12月4日 H30年度鈴亀地区老協職員研修会  
 （アンガーマネジメント） 介護職員1名参加  
 於：桜の森白子ホーム1階 地域交流室
- ・平成30年12月13日 第3回「豊かな介護人材が揃う魅力ある職場作り  
 セミナー」 施設長1名参加  
 於：三重県勤労福祉会館 研修室
- ・平成30年12月14日 介護労働者雇用管理責任者講習 施設長1名参加  
 於：三重県教育文化会館 第5会議室
- ・平成31年1月17日 第4回「豊かな介護人材が揃う魅力ある職場作り  
 セミナー」 施設長1名参加  
 於：じばさん三重 視聴覚室
- ・平成31年1月31日 第5回「豊かな介護人材が揃う魅力ある職場作り  
 セミナー」 施設長1名参加  
 於：三重県総合文化センター 文化会館
- ・平成31年2月6日 三重介護人材採用フェスタ2019 施設長1名参加  
 於：メッセウイングみえ二階会議室
- ・平成31年2月19日 介護労働者雇用管理責任者講習 施設長1名参加

- 於：三重県教育文化会館 第4会議室
- ・平成31年3月4日 鈴鹿西部地域包括支援センター研修会  
介護支援専門員1名参加  
於：スポーツマンハウス鈴鹿
  - ・平成31年3月6日 第6回「豊かな介護人材が揃う魅力ある職場作りセミナー」  
施設長1名参加  
於：三重県勤労福祉会館6階研修室

### 3. 経費の節減

- ・光熱費について

使用量、使用料金共に前年比3%の削減。H28年度-H29年度にて11.3%の削減を既に達成していることと、夏季の猛暑が響き小幅の削減にとどまった。

H30年度後半からは紙オムツ使用量の推移も事務Mにて検討し、無駄使いの監視に努めた。

### 4. 人材の育成・定着化

「アセッサー」資格を取得した職員を中心として、そのノウハウを新入職員の教育訓練に活用した。また既存の職員については内部研修・外部研修等を通じて意欲向上を図るとともに、働きやすい職場環境づくりを進めた。

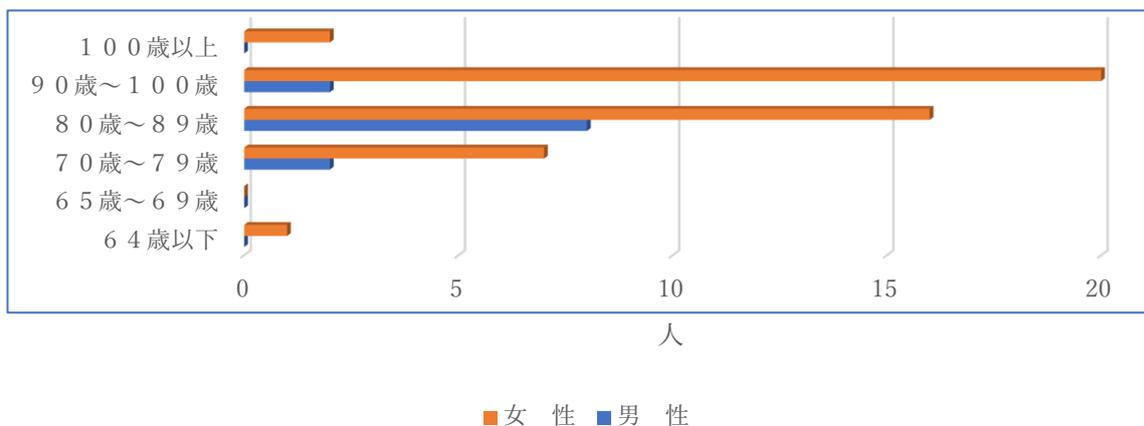
## Ⅲ. 入居者の状況

### 1. 年齢別男女入居者数

平成31年3月31日現在

	64歳 以下	65歳～ 69歳	70歳～ 79歳	80歳～ 89歳	90歳～ 100歳	100歳 以上	合 計
男 性	0	0	2	8	2	0	12
女 性	1	0	7	16	20	2	46
合 計	1	0	9	24	22	2	58

## 年齢別男女入居者数

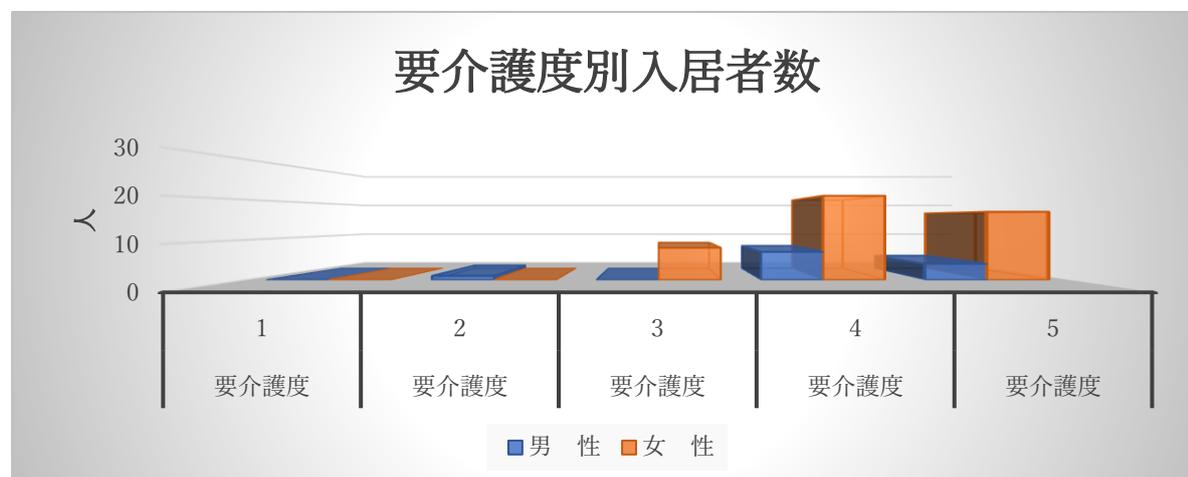


## 2. 要介護度別入居者数

平成 31 年 3 月 31 日現在

	要介護度 1	要介護度 2	要介護度 3	要介護度 4	要介護度 5	合 計
男 性	0	1	0	7	4	12
女 性	0	0	8	21	17	46
合 計	0	1	8	28	21	58

## 要介護度別入居者数

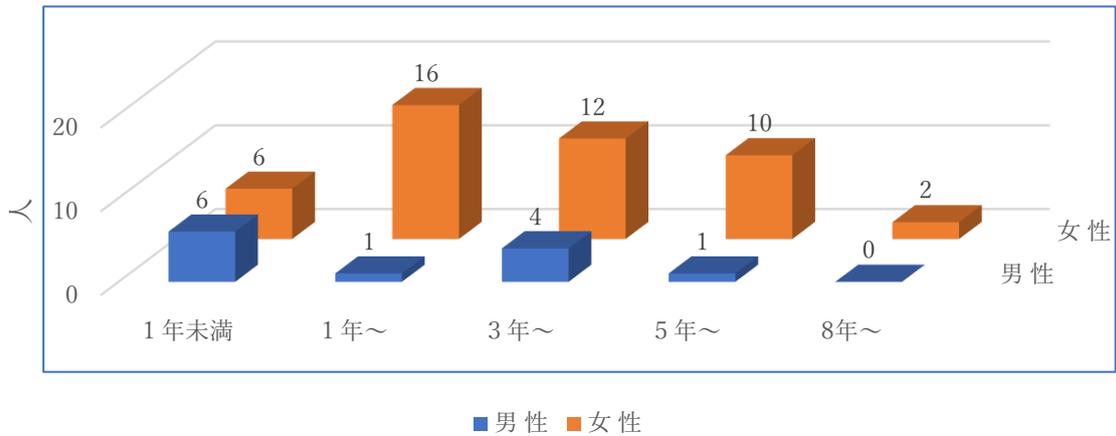


## 3. 入居期間の状況

平成 31 年 3 月 31 日現在

	1年未満	1年～	3年～	5年～	8年～	合 計	平均期間
男 性	6	1	4	1	0	12	1年 11 か月
女 性	6	16	12	10	2	46	3年 7 か月
合 計	12	17	16	11	2	58	3年 3 ヶ月

### 入居期間の状況

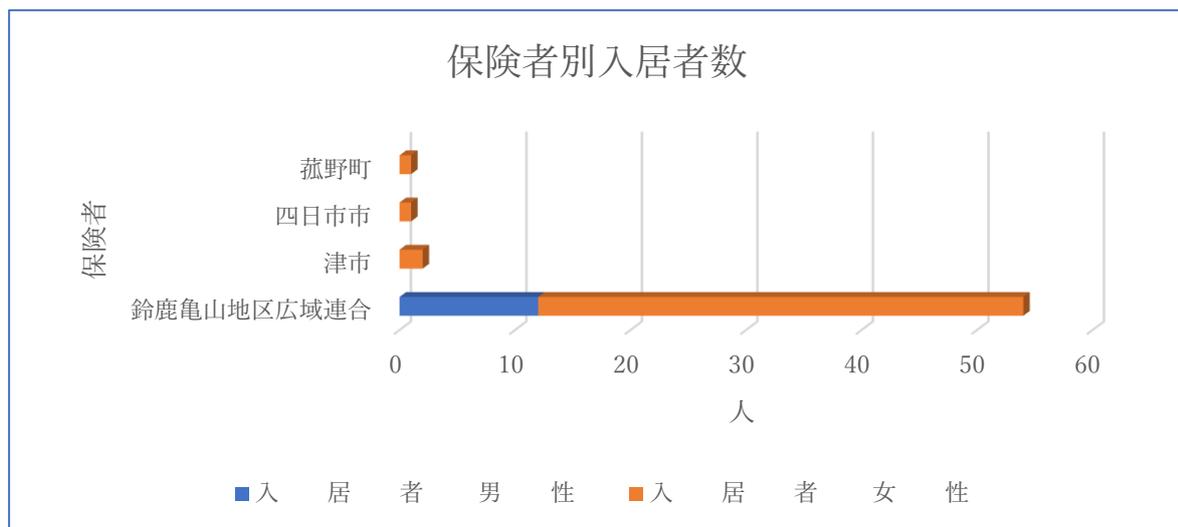


#### 4. 保険者別入居者数

平成 31 年 3 月 31 日現在

保 険 者 名	入 居 者 数		合 計
	男 性	女 性	
鈴鹿亀山地区広域連合	12	42	54
津市	0	2	2
四日市市	0	1	1
菰野町	0	1	1
合 計	12	46	58

### 保険者別入居者数



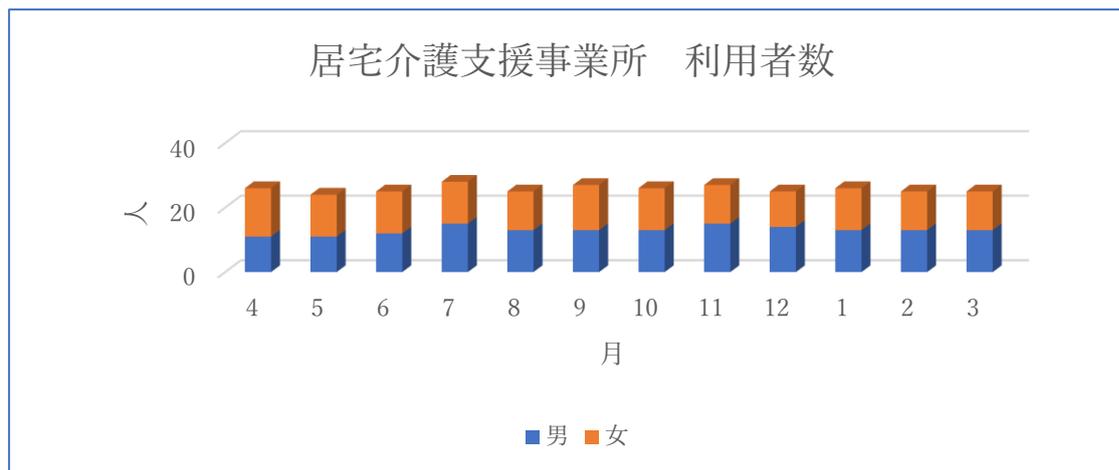
#### IV. 居宅介護支援事業の状況

資料3：居宅介護支援事業の状況

居宅介護支援事業の利用者数

(平成30年度)

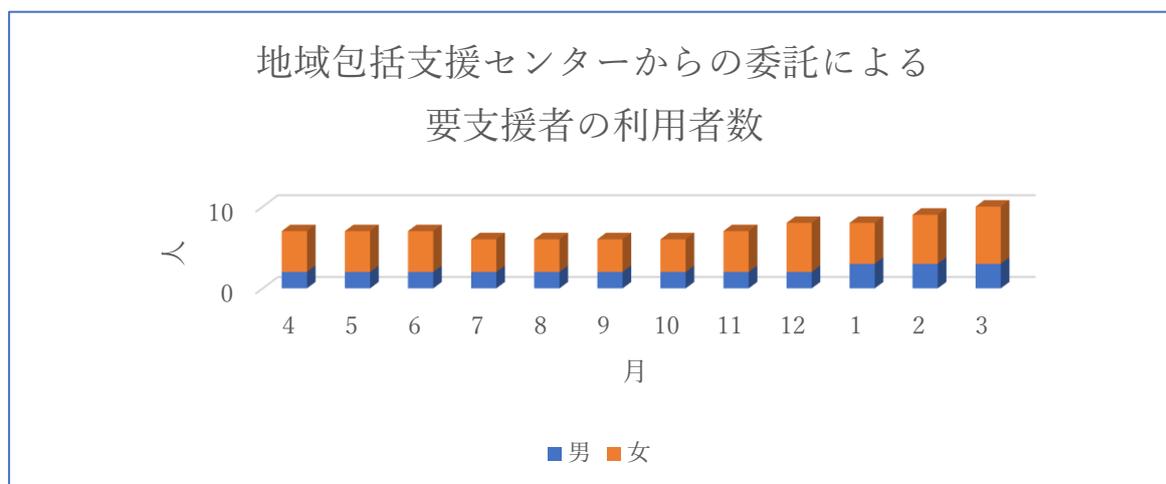
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
男	11	11	12	15	13	13	13	15	14	13	13	13	156
女	15	13	13	13	12	14	13	12	11	13	12	12	153
計	26	24	25	28	25	27	26	27	25	26	25	25	309



地域包括支援センターからの委託による要支援者の利用者数

(平成30年度)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
男	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	27
女	5	5	5	4	4	4	4	5	6	5	6	7	60
計	7	7	7	6	6	6	6	7	8	8	9	10	87



V.

## V. 各ユニットの事業報告

### 1. 「海」ユニット 平成 30 年度事業報告

項目	目的	具体的行動計画	計画事項の実施状況
ユニットミーティングの開催。	① 個別ケアカンファレンスの実施。 ② ユニット内の業務内容の見直し。 ③ リスクマネジメントの強化。	① 入居者様の各担当職員が1カ月間の様子を見て、現段階のケアの見直しを行う。24hシート見直し。 ② 24時間の業務内容をユニット職員で見直していく。 ③ 事故予防、防止策検討し、年間の事故0を目指す。	①については、2カ月に1回のユニットミーティングを実施していた。24hシートについては、変更されたケアについて、すぐに記入出来ていなかったのが今後の課題。 ②業務の変更内容の伝達は、行っていた。 ③事故に関しては、入居者様のアザ、打撲痕など目立った方もみえ、今後も注意していく必要あり。
写真のアルバム作り。	ご家族様に写真を見て頂き、日ごろの入居者様のご様子を見て楽しんでいただく。	年間の写真担当者を決めて、3か月に1回アルバムを更新できるよう努める。	写真はとって有るが、それを現像するには至らず。 行事の際は今後も撮っていく。
感染症委員会の開催	年間の感染症対策の見直し。	夏場の食中毒、冬場のインフルエンザ、ノロウイルス等の感染対応策を考える。	3か月に1回開催でき、対策も徹底できたので、今後も継続。
外出行事の実施	入居者の皆様に散歩、ショッピング、ドライブ、外食等して頂き、気分転換していただく。		外出出来たのは、今年度は職員の人数が足りない事もあり、花見の際のみとなってしまったので、来年度はさらに実施できるよう考えていく

### 2. 「大地」ユニット 平成 30 年度事業報告

項目	目的	具体的行動計画	計画事項の実施状況
リスクマネジメント。	事故予防、誤薬予防を徹底し入居者の安全、健康維持を図り、事故件数を	介護事故防止委員会の統計等を鑑み、また前年度の事故内容をユニット内で分析し、予防、再発予防に努める。	速やかな報告書の作成、内容の共有等は図れたが、再発防止や事故件数の減少には繋がらず、また同内様の事故報告書が多くみられたことが次回の課題となる。

	前年度の50%以下とする。	報告書は速やかに作成し、ユニット内の連絡帳にも同様の内容を記入、共有を徹底する。	
催しの実施。	季節の移り変わりや習慣を肌で感じていただく。 定例行事に加え、3回/年の外出を行う。	各催事期、季節に合った企画を立て、屋外での催しも取り入れ、関係各所と連絡を取りながら安全に実施していく。 隣接するユニットと連携して担当を決め、事前に打ち合わせを行い実施し、記録を残す。	担当者を決め催事期の催しを実施することは出来たが、ユニット独自の催しは室内の食事会等に限られ、外出の機会は提供出来なかった。
レクリエーションを取り入れた環境、空間作り。	過ごしやすい快適な環境を提供する。	居室、ユニット内の清掃や備品の整備を随時行う。また入居者と一緒に飾り付け等を作成して、レク等の一環とする。	実施できた。引き続き入居者とのコミュニケーションを図りつつ行っていく。
ミーティングの実施。	職員間の意見交換を行い、業務やサービスの改善、周知徹底を行う。	日常のサービスやケアプランを見直し相談員と連携、最適なサービスを提供できるよう情報共有に留意する。	1回/4カ月の実施となった。

### 3. 「空」ユニット 平成30年度事業報告

項目	目的	具体的行動計画	計画事項の実施状況
ユニットミーティングの実施	意見交換 意識の統一を図る	ユニット内での問題点、改善点等について話し合い支援方法の決定、見直しを実施する。 また、支援の統一も図る。	計画通り 1回/2か月実施できた。
環境整備	感染症の蔓延予防 生活環境を整	生活室・各居室の温度・湿度を管理し換気を日常的に行う。	温度・湿度の管理に努め感染症は発生しなかった。 生活室・居室の清掃は行きとどか

	える	生活室・各居室の清掃を行い快適に生活できるように努める。	ず家族様より注意されることもあった。
水分強化	脱水症の予防	定時の水分補給以外にも無理のない範囲で水分を勧め 1500ml/日飲んでいただく。	訴えのある方は達成できているがその他の方は 1200ml/日程であった。
共同生活室の飾り付け	季節を感じていただく	季節にあった飾りつけを実施していく。	7回/年飾りを変えたが何もない季節もあった。
行事の実施	季節感とともに楽しさを感じていただく	季節にあった行事を企画し、他部署と連携を取りながら実施していく。	職員の出勤人数もあり、あまり行えなかった。
介護事故・ヒヤリハットについて	事故の再発防止	事故等、発生時には原因究明・防止策を医務・相談員と連携を取り介護職員に口頭・連絡ノートで防止策を徹底していく。	他職種と連携をとり原因究明、防止策を考え口頭・連絡ノートで徹底できた。

#### 4. 「太陽」ユニット 平成 30 年度事業報告

項目	目的	具体的行動計画	計画事項の実施状況
レクリエーション	楽しさを持っていただく。	誕生日会 ・誕生日当日におやつを用意して誕生日のお祝いを行う。	・実施出来た。入居者の嚙下状態に合わせたおやつを提供を行った。
		外出行事 ・季節感を感じていただけのように春、秋（気候のよい時期）に外出行う。車で等遠出に拘らず施設園庭や近隣の散歩でもかまわない。	・一度程しか実施出来なかった。通常業務優先で実施出来なかったため計画立てておく等工夫することが課題。
原因不明（主に打撲跡）の事故	事故予防	介助方法、本人の動き、周囲の環境等事故に繋がるかもしれない事項があれば連絡ノートに	・原因不明の事故は減少したが「いつ出来たのか？」というような皮下出血のような事故は続いており、慣れから情報の共

		て情報を共有し、対策をたて、事故減少を図る。 原因不明事故発見後はユニットリーダーが関わった職員に聞き取りを行い原因を探る。	有が疎かになっていた。
ユニットミーティング	情報共有 意見交換	意見交換により情報を共有し、意識の統一、サービスの見直しを行い、サービス向上を図る。	・ミーティングは実施出来ず。情報の共有はユニット連絡帳に頼っていた。

5. 「星」ユニット 平成 30 年度事業報告

項目	目的	具体的行動計画	計画事項の実施状況
行事 (催し物)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節を感じて頂く。</li> <li>・楽しみをもって頂く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他職種と連携をとり季節にあった催し物を実施する。場合によっては月ユニットと共に実施していく。</li> <li>・季節感のある食べ物の提供を計画する</li> <li>・誕生会の実施</li> </ul>	<p>3F 職員人数、勤務時間上、29 年度と比べると行事を行う事ができなかった。</p> <p>季節感のある食べ物の提供は実施出来たと思われる。</p>
外出行事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外出を通し季節を感じて頂く。</li> </ul>	<p>4月 花見 6月 ショッピング 8月 喫茶店</p> <p>また、気候の良い日は園庭散歩や園庭での催し物を企画</p>	<p>3F 職員人数、勤務時間上、調整つかず、4月花見のみ実施となった。</p> <p>園芸への参加、園庭散歩については実施できた。</p>

ユニットミーティングの開催	・意見交換を行いサービスの向上を目指す	ユニット内での問題点、改善点等について話し合い支援方法の決定、見直しを実施する。また、支援の統一も図る。	勤務表上、参加者を集める事が出来なかった。2カ月に一度ミーティングを予定していたが、最大6カ月間、ミーティングを行う事ができなかった。  連絡ノートを使用し意見交換を行った。
介護事故、ヒヤリハットについて	・事故防止 ・再発防止	・3F 全職員で意見交換を行い事故に関する意識を高めリスクの共有化を図る。 ・他職種と連携を図り原因究明、防止策を考えていく。 ・随時、注意喚起を連絡ノートにて行う。	意見交換や連絡ノートにて注意喚起を行う事で、リスクを共有し事故防止に繋がったと思われる。  他職種と連携を図り原因究明、防止策を練る事が出来たと思われる。
環境整備	ご本人の生活（ADL）にあった環境をつくる	・生活スペースの整理又は清掃を実施し個々にあった快適な生活環境を目指す。 ・必要物品依頼	物品の購入等、ご家族様と相談し購入する事ができた。  環境整備 10名分の時間を持っていない。優先度の高い順に行っているのが現状であった。

## 6. 「月」ユニット 平成30年度事業報告

項目	目的	具体的行動計画	計画事項の実施状況
ユニットミーティングの開催	意見交換	ユニット内における問題点・改善点について検討 日課表・24Hワークシート更新	2か月に1度開催していたがなかなか時間をもつことができず、意見交換ができなかった。
行事開催について	入居者様に楽しみを持って参加して頂く。	昨年度様々な行事を開催することができたため、今年度も企画していく。 (星ユニットとの連携・協力)	29年度に比べ、行事回数が少ない為 3階職員全員で実地できるように工夫していく。

環境整備	快適に過ごして頂くため	必要物品について検討、ご家族様に依頼する。	入居者様に必要な物品については、家族様相談の上購入できているため今後もユニット職員で検討していく
ユニット間の連携	入居者同士の交流を深める	連携を図り、ユニット行事の充実と利用者様の交流を深める。また職員同士の協力・助け合いで介護の質の向上を目指し、個別ケアを行っていく。	職員同士の協力はできていたと思う。 介護の質に関してはまだまだみなおさなければならぬ部分があると思われる。

## VI. 各職種の事業計画

### 1. 栄養・調理 平成 30 年度事業報告

項目	目的	具体的行動計画	計画事項の実施状況
衛生	食中毒 0 件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手洗い励行</li> <li>・衛生点検実施</li> <li>・水質検査実施</li> <li>・食材、器具、設備を清潔に保つ。</li> <li>・調理後も温度管理を徹底、2 時間以内に喫食いただく。</li> <li>・検便の実施</li> </ul>	毎日、実施 (検便は月 1 回)
安全	異物混入 0 件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清潔な白衣、帽子マスクを着用する。</li> <li>・異物に注視する。</li> <li>・調理場内に不要物を置かない。</li> <li>・必要時以外、部外者を調理場内に立ち入らせない。</li> </ul>	毎日、実施
献立	栄養素量充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品構成表を基に献立作成を行う。</li> </ul>	蛋白質・V・C・Ca などの主な栄養素類は充足していたがビタミン B1・B2・繊維は充足できなかった。
行事食	サービス向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旬の食材を使用したイベント実施</li> </ul>	毎月、実施 (12 月・1 月は除く。)

調査		・嗜好調査の実施	5月に調査実施
喫茶	サービス向上 交流の場作り	・案内表の作成 ・手作りのお菓子、 飲み物を提供	感染予防や施設の状況で 8月・12月・1月は中止 他の月は1回実施
ミーティング	サービスの改善 仕事効率向上	・多職種で意見交換 ・問題点の改善	毎月、1回実施
栄養ケア マネジメント	低栄養の予防 栄養改善	・栄養ケアプランの作成 ・モニタリングの実施	3ヶ月に1度作成
教育	知識向上	・研修に参加	7月、11月に参加
報告	情報提供	・給食運営状況を 保健所へ報告	11月に報告

## 2. 生活相談員 平成30年度事業報告

項目	目的	具体的行動計画	計画事項の実施状況
入居調整	年間稼働率 98%	施設見学・入居相談があるときは、優先的に対応する。	・年間稼働率 99.2% ・急な見学や相談に優先的に対応し、事前に連絡があった場合は可能な限り相談員が対応した。
		入居検討委員会を定期的で開催し、入居候補者の調整を行う。	・月1回入居検討委員会を開催し、入居候補者の選定を行った。
		待機者の状況を定期的に確認する。	・入居申込があった時は、申込者の情報を点数化し、待機者順位を再確認した。
		施設のパンフレットを居宅介護支援事業所、病院等に配布する。	・紹介実績のある居宅介護支援事業所や病院を中心に施設のパンフレットと入居申込書を配布した。
入居者様、家族様との面談	満足度の向上	入居者様、家族様と面談し、施設生活に対しての感想、要望を確認する。 ご質問、ご相談がある時は、迅速に対応する。	・ユニットを訪問し、入居者様のお話を伺った。 ・家族様に対しては面会時にご本人の様子をお伝えし、体調変化があった時は電話連絡を行った。 ・要望があった時は、ユニットリーダーと相談し、実現に努めた。

職員教育	介護職員のスキルアップ	各職員の課題を把握し指導・助言する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設内研修については、具体的な計画を作成できなかったため、施設長主導で研修を計画して頂き、伝達研修を実施した。</li> <li>ユニットでの業務中に、気がついたことに関しての指導助言を行った。</li> <li>系統立てて職員教育に取り組めていないため、今後の課題となっている。</li> </ul>
		施設内研修を計画する。	
		介護主任・介護副主任と協力し、職員の業務に対する意欲向上に取り組む。	

### 3. 介護支援専門員 平成 30 年度事業報告

項目	目的	具体的行動計画	計画事項の実施状況
ケアプラン作成方法の見直し	ユニットケアに適したプランを作成する。	作成手順の見直しを行う。 ユニットリーダー、ユニット職員との連携方法を構築する。	年度内に出来ず次年度に持ち越した。
ケース検討	課題解決に取り組む	サービス担当者会議を開催し、個別の課題の解決に取り組む。	定期的な会議出来ない時は各職種に聞き取りを行った。
サービス内容の充実	楽しく生活していただけるようなサービスを提供する。	入居者様、家族様とコミュニケーションを図り、要望を把握する。 ユニットリーダー、ユニット職員と連携し、余暇活動を充実させる。	コミュニケーションをあまり図れなかったご家族もいた。 余暇活動の充実まではいならず。
サービスの質の向上	施設全体のサービスの質を向上する。	より良いサービスの提供方法をユニットリーダー、ユニット職員と検討する。 成功事例を他のユニットにも情報提供し施設全体で共有する。	成功事例を他のユニットまで広げられず。

#### 4. 看護 平成 30 年度事業報告

項目	目的	具体的行動計画	計画事項の実施状況
定期健診	健康管理	年/一回レントゲン健診。採血検査 要治療の方については医師の指示	嘱託医との連携において 通年施行実施 二次検査は嘱託医指導の元に 実施。
衛生管理	感染予防委員会	感染対策策定	年 4 回実施
カンファレンス	看護、介護の問題点を探る。	ユニット別の ケースカンファレンス	相談員との連携により実施
研修会	入退院時の 嘱託医との連携	薬剤による効用、副作用の勉強会参加	嘱託医及び連携薬局（薬剤師との勉強会）にて実施

#### 5. 事務 平成 30 年度事業報告

項目	目的	具体的行動計画	計画事項の実施状況
安定した運営	稼働率の向上を図る。	年間稼働率を 98%以上とする。	年間稼働率 99.2%
収支管理	適正な財務運営	物品在庫、使用状況を毎月事務Mにて確認し、管理を徹底する。消耗品の節約、光熱費の削減を他部署に呼び掛ける。	毎月事務ミーティングにて物品価格、使用状況を確認し、変動のある時は各部署に使用状況を確認し、使い方や節約を呼び掛けた。
	徴収不能金ゼロ	入金状況を確認、確実に徴収する。	3月31日現在、入居者2名の滞納金 381,577 円。 文書および電話にて催促し、徐々に返済中である。

利用者満足度アンケート	家族および利用者が安心・満足されるサービスを提供する。	利用者満足度アンケートの実施および分析。	利用者満足度アンケートを実施し、集計結果を分析し、家族様に配布した。
預り金の管理	預り金の適切な処理と利用者および家族の苦情ゼロ。	利用者および家族への預り金の収支・残高の報告。	年4回預り金出納表にて収支・残高の報告をした。
広報誌の発行	施設の様子を利用者、家族にお知らせする。	広報誌「すばる」の発行。	施設での利用者様の様子を写真を中心に掲載した広報誌「すばる」を年4回発行し、家族様に配布した。
喫茶の開催	入居者への楽しみ、交流の場を提供する。	喫茶の実施。	毎月喫茶を開催し、メニューの中に季節を感じられるものを取り入れ、入居者の皆様に楽しんでいただいた。 (感染予防等で8月・12月・1月は中止)
職員研修会	知識・技術の習得のための研修計画と外部研修の情報提供をする。	内部研修会の計画、外部研修会の手続きと職員への報告書の周知。	内部伝達研修を年10回実施、外部研修を年19回参加し、職員へ研修報告書を周知し教育訓練をした。
職員の健康維持	長く元気に勤務できる職場作りを行う	健康診断・ストレスチェックを実施、結果を産業医・衛生委員会で確認、必要な対策を講じる。	健康診断(年2回)・ストレスチェック(年1回)を実施した。結果は産業医にコメントをもらい職員に配布するとともに衛生委員会にて予防対策を検討した。
災害への備え	災害時、適切に対応して被害を最小限にする。	緊急連絡網の整備、避難訓練、消火訓練、通報訓練の計画と実施。	緊急連絡網を整備し、消防訓練を年3回実施した。

設備の適切な使用と維持管理	機械設備の無駄な使用をなくす。	空調、照明、給湯の無駄な使用がないよう常時監視する。	空調、照明、給湯等設備の定期点検及び自主点検を確実に実施した。また故障等が起こった際は早急に修理を行い、利用者様に不便をお掛けしないようにした。 空調、照明、給湯等の無駄な使用がないよう監視し、事務Mでも検証、振り返りを毎月行った。
	機械設備を適切に維持管理する。	空調、電気製品、水道衛生設備の日常の点検や手入れを丁寧に行い、常によい状態で使用する。	
敷地内の環境維持	庭を継続して美しく保つ。	芝生エリアの除草作業を丁寧に行う。 菜園、駐車場、貯留池等の除草作業を行う。	年間を通して園庭の除草作業を実施。芝生に関してはこまめな水やりと芝刈り等にて敷地内の環境を維持した。

#### 6. 居宅介護支援 平成 30 年度事業計画

項目	目的	具体的行動計画	計画事項の実施状況
利用者の確保	目標値：月 30 名	緊急ケース受け入れ等により地域の信頼を得る。	要介護の年間平均件数 25.8 件 要支援の年間平均件数 7.3 件 年間平均で約 33 件の受け入れを行っており、目標を達成した。

### VII. 各委員会の事業計画

#### 1. 介護事故防止委員会 平成 30 年度事業報告

項目	目的	具体的行動計画	計画事項の実施状況
委員会の開催	事故発生予防のため	委員会を年 4 回開催。	7 月、12 月に委員会を実施。 H31 年度は年 4 回実施できるようにする。(委員会の年度実施計画策定済)
事故事例の集計・分析の実施	事故防止対策の策定のため	前年度の事故事例を集計し、内容・時間・場所等分析して職員に公表。	7 月、12 月にそれまでに集計・分析したデータに基づき委員会を開催し協議した。 協議結果は分析データとともに全職員に周知した。

事件事例の検討	事故防止対策の策定と実施	上記実施後、ユニットごとの状況に応じた事故防止策を策定し、実施する。	上記実施後、ユニットごとの状況に応じた事故防止策を策定し、実施した。
施設内研修の実施	職員の意識向上	職員が事故を予防するための注意点等を具体的に学習できる研修を実施する。	1月に事故の発生予防・事故の発生等緊急時の対応について研修を行った。

## 2. 感染症予防委員会 平成30年度事業報告

項目	目的	具体的行動計画	計画事項の実施状況
委員会を定期開催する。	感染予防のため	3ヶ月に1回の頻度で委員会を開催する。 参加者(委員)は施設長・看護職員・介護職員・栄養士・事務員の各職種より1名～2名。	6月、9月、3月に委員会を実施した。来年度は年4回開催できるようにする。(委員会の年度実施計画策定済)
感染症・食中毒予防対策の策定	予防対策の標準化	現行の予防策を見直し、全職員が実施できる予防対策・マニュアルを策定する。	委員を中心に施設内の感染症実施マニュアルを策定した。
予防対策の実施管理	予防対策が確実に実施されるため	各委員が、自分の業務範囲において予防対策が確実に実施できているかフォローする。	委員を中心に不十分な対応を確認したら、即指導し正しい方法を伝えられるようにした。 平成30年度の感染症はゼロであった。

## 3. 身体拘束廃止委員会 平成30年度事業報告

項目	目的	具体的行動計画	計画事項の実施状況
委員会の開催	身体拘束廃止のため	年4回の委員会を開催する。	年4回の委員会の開催を実施した。
身体拘束実施事例の廃止検討	身体拘束ゼロを目指す	実際に行われている場合について、廃止を前提に具体的方法を	ユニット内及び身体拘束廃止委員会にて廃止を前提にした協議を重ね、8月に1件身体拘束を解除した。

		協議する。	
施設内研修の実施	身体拘束廃止方針の周知徹底	介護・看護職員を対象に、その弊害や法的位置付け、廃止のための方法等を学ぶ。	年二回の身体拘束廃止に関する施設内研修を行った。又中途採用の職員に関しては全て採用時に研修を行った。(新卒採用はゼロであった)
身体拘束に関する施設内監視	無断で安易な拘束をさせない	委員を中心に施設内監視を行い、無断での拘束行為があれば即刻停止させ、注意指導を行う。	ユニットリーダー、委員等を中心に監視を行った。無断での拘束やそれに準ずる行為は行われていなかった。

#### 4. 衛生委員会 平成 30 年度事業報告

項目	目的	具体的行動計画	計画事項の実施状況
委員会の開催	職場内の衛生・安全環境を確立する。	年 12 回の委員会を開催する。	毎月実施し、職員のメンタルヘルス予防対策やハラスメント予防対策を実施した。
労働災害の未然防止やメンタルヘルス維持のための活動の計画・実施。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部署の現状把握</li> <li>・対応・予防策の協議</li> <li>・活動内容の計画、実施</li> </ul>	

#### 5. 入居検討委員会 平成 30 年度事業報告

項目	目的	具体的行動計画	計画事項の実施状況
委員会の開催	適正な入居受け入れを行う。	年 12 回の委員会を開催する。	毎月実施し、入居順位決定を行った。
申込者の優先度の検討。		申し込み受付職員からの詳細な情報をもとに、入居基準に則って入居順位を決定する。	

平成30年度  
鈴鹿聖十字の家 老人居宅介護等事業  
事業報告書

I 事業内容

老人居宅介護等事業（訪問介護事業・総合事業訪問型）

II 事業内容全般

要介護状態となった場合においても、その利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じた日常生活を営むことができるよう、利用者個別の生活状況に応じて必要な支援を行うことに努めた。

III 具体的な事業実施内容

1. 事業収入の向上

（計画内容）

事業運営の安定化のため、月間の平均介護保険収入を、1,200,000円以上とする。

（実施状況）

今年度の介護保険収入は、上半期を中心に利用回数の多い方の施設入居、死亡等による利用中止が相次いだ影響で、月平均額は1,083,164円と落ち込み、目標値を上回る実績をあげることが出来なかった。ただ前年度よりは介護保険収入を上げることはできた。来年度も同様の目標を掲げ達成できるよう、あらゆる手段を講じていく。

2. 利用者の満足度の向上

（計画内容）

利用者満足度調査を年一回実施し、改善すべき点を明確にして取り組む。

（実施状況）

利用者満足度調査を実施し、ミーティング等により改善すべき点を明確にして取り組んだ。

3. 職員の資質向上

（計画内容）

年に4回、職員研修（内部研修）を行う。また外部研修についても参加する機会を設ける。

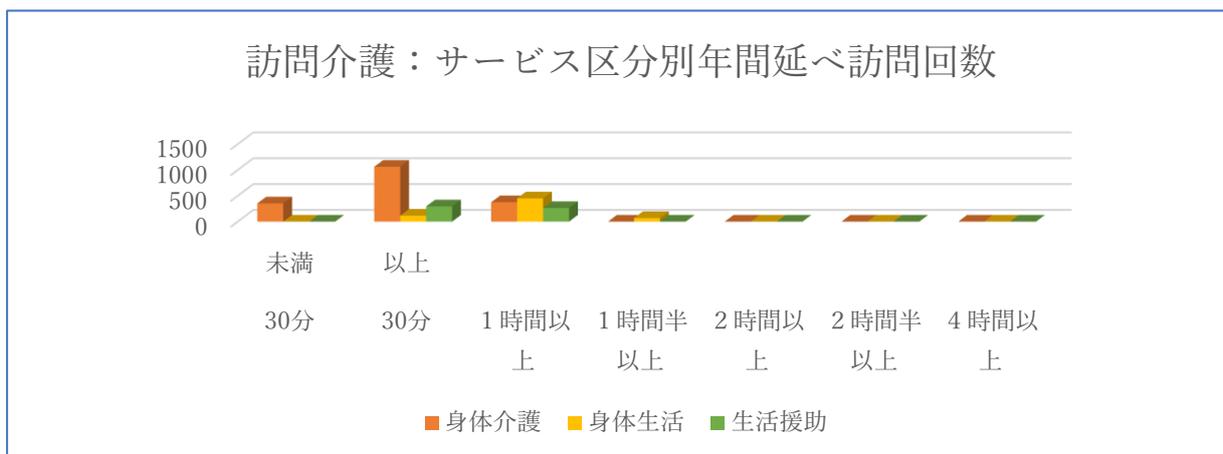
（実施状況）

年に4回、職員研修（内部研修）を行った。外部研修については都合がつかず参加できなかったが、来年度は参加できるよう調整していく。

#### IV 資料

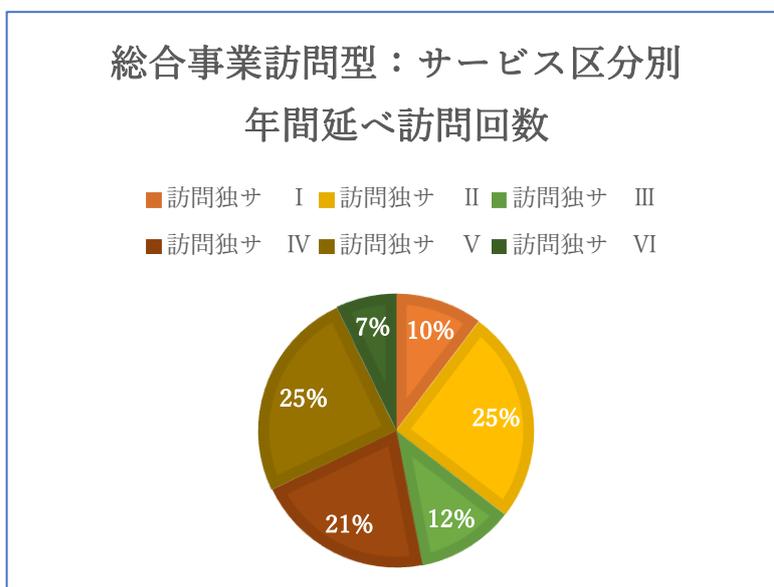
##### 1 訪問介護：サービス区分別年間延べ訪問回数（回）（平成30年度）

	30分未満	30分以上	1時間以上	1時間半以上	2時間以上	2時間半以上	4時間以上	合計
身体介護	352	1061	374	-	-	-	-	1787
身体生活	-	115	449	68	-	-	-	632
生活援助	-	294	262	-	-	-	-	556
合計	352	1470	1085	68	-	-	-	2975



##### 2 総合事業訪問型：サービス区分別年間延べ訪問回数（回）

	回数
訪問独サ I	84
訪問独サ II	207
訪問独サ III	94
訪問独サ IV	172
訪問独サ V	205
訪問独サ VI	58
合計	820



# 平成 30 年度 障害者支援施設 菰野聖十字の家 事業報告書

## I.事業内容

障害者支援施設（生活介護事業 定員 75 名、施設入所支援事業 定員 60 名）  
障害者短期入所事業 : 5 床

## II.職員定数

看護職員、セラピストおよび生活支援員の配置数は、利用者に安心して、またその人らしい意欲的な生活の実現を目指すため、人員配置体制加算(1)基準数の配置を維持した。

## III.運営の基本方針および事業目標

「利用者と誠実に向き合い、その人とともに生き、感じ、その方が望む生活を実現していく」という目標のもと、施設を利用される多様な障害をお持ちの方が、本当に安心してその人らしい意欲的な生活の実現を目指すために、対人援助技術や障害特性の理解を深めることによるコミュニケーション能力の向上、障害を理由とする差別の解消、障害者の権利擁護に対する意識の向上、施設内美化等による環境整備、職員間の連携協力体制強化、職員が嬉々として働くことのできる環境づくりに努めた。具体的な支援やサービスの提供内容については下記に記載。

## IV.具体的な事業計画およびその内容

### 1.施設入所支援・生活介護事業（入居部門）

(1) 利用者に喜んでいただけるケアを実施し、利用者満足度のアップに取り組む

- 主任、副主任の監督職が各チームミーティングへの参加と、個別の聞き取り調査を行い、取り組みを実施している内容や課題に対する評価を実施した。利用者の生活においては、ご家族様に安心していただけるよう、面会時の積極的な関わりによる情報共有と写真や手紙の郵送による状況報告を行った。サービス管理責任者は利用者やご家族様からの意見・要望・不満等の情報を収集・課題を整理するために相談支援事業所と連携し、個別支援計画書に沿った適切な支援が実施されているかの協議と利用者及びご家族様との随時個別面談等を実施した。

(2) 不適切ケアに対する理解を高め、利用者が人間としての尊厳を持って暮らせる体制を目指す

- 毎月の振り返りチェックシートの実施により、職員個々の不適切ケアに対する意識を高めることができた。併せて対人援助に関して不安・迷いを示す職員に対しては、主任副主任が個別の聞き取りにより助言・指導を行うことで、接遇マナーの向上につな

げることができた。

- ・ 多職種参加の虐待防止委員会にて、不適切と思われる具体的事例を取り上げて協議し、更に全職員にもその事例に対して協議する場を設けることで、不適切ケアに対する意識の高まりにつなげることができた。

### (3) リスクマネジメント管理を適切に行い、介護事故を防ぐ

- ・ リスクマネジメント委員会を中心として、事故及びヒヤリハット報告書の内容に応じた職種からの意見を聴取し、再発防止に取り組むことができた。理学療法士による kai 技術研修を実施したが、介護時における事故が 13 件発生した。個々の介護技術向上を目指すため、次年度も理学療法士による専門的な内部研修を行っていく。
- ・ 平成 30 年度、骨折事故が 5 件発生している。内 2 件は身体介護時に発生したもの（残 3 件はご本人様による移動・移乗時に発生したもの）であり、介助・見守り方法の見直しを行った。次年度も引き続き、理学療法士による身体状況に応じた実技講習や移乗用具を取り入れることで、介護知識・技術の向上につなげ、骨折事故を未然に防いでいく。
- ・ 今年度も居室等環境チェック表を用いて、生活上危険と予測される場所を確認し対応することで、安心して生活していただける環境の提供に努めた。次年度も居室や共有スペースの乱れに対する対応を徹底していけるように、環境委員会を中心に対処方法を検討し、快適に過ごしていただける環境整備に努めていく。

### (4) 利用者の方々が施設で健康かつ安全に過ごしていただけるサービスを提供する

- ・ 個別支援計画書更新時に、多職種間で利用者の心身状況を確認し意見交換を行うことで、密な情報共有ができ、早期の対応ができる体制をとることができた。
- ・ 毎月実施する体重測定や喫食調査から低栄養状態とされる利用者に対して、補助食を取り入れ、随時評価を行い健康管理に努めた。
- ・ 食事満足度向上委員会を多職種共同で実施し意見交換を行い、利用者の食に対する満足度が向上するように努めた。
- ・ セラピストと生活支援員が連携し、食事の姿勢や摂食状況を確認することで、食事形態のアップにつなげることができ、利用者の食に対する喜びにつなげることができた。
- ・ 褥瘡の発生防止に関しては、看護職員と生活支援員が連携し肌疾患がないか、随時確認・報告した。
- ・ 今年度もセラピストによる無圧マットの適正利用評価の実施と、栄養士のマネジメントによる補助食の提供を行い、褥瘡の悪化を防ぐことができた。
- ・ 福祉用具の適切な取り扱いをセラピストから文章および実技指導により伝達を行うことで、生活支援員の理解を高めることができ、安全に過ごしていただける環境づくりに努めることができた。適時、ケア担当者との検討・協議を実施し、ケアの方向性を確認。より良いサービスの提供につなげていけるように努めた。
- ・ 感染症に対する研修の実施と発症時の対応マニュアルの掲示により、職員個々の意識

を高めることができた。

- ・ 感染予防や特別対応方法などを全職員の目の届く場所に掲示することで意識が維持され、迅速に対応することができた。施設全体でのマスク着用と手指消毒は今年度も実施し、インフルエンザ及び感染性胃腸炎の発症はみられなかった。利用者の療養および居室環境を整備し、安心かつ快適に生活していただくことができた。

(5) 利用者の方々が施設で有意義に過ごしていただけるサービスを提供する

- ・ 生活支援員は利用者からの声を傾聴し、サービス提供する姿勢に努めることができた。しかし、障害特性の理解不足や経験年数の浅い職員のコミュニケーション能力不足から戸惑いの声をいただくこともあり、次年度も内部研修の実施および個別指導の実施にて、施設で有意義に過ごしていただける環境の構築を目指していく。
- ・ 入居者ミーティングにて利用者の希望を伺い、今年度も年4回の昼食会を実施した。利用者からは「おいしかった、普段と違う雰囲気楽しかった、また実施してほしい」など、喜びの声を多くいただいた。

(6) 利用者の療養および居室環境を整備し、安心かつ快適に生活していただく

- ・ 居室内等環境チェック表を用いて、居室および共有スペースを整備し快適に生活していただける環境づくりに努めることができた。季節行事の写真掲示や共有スペースに季節に応じた飾り等を行うことで、利用者から喜びの声をいただくことができた。
- ・ セラピストは多職種間協議を行いながら利用者の心身状況を確認し、必要に応じた福祉機器（移乗用具、手指訓練器具、リハビリ用椅子等）の検討・導入を行った。リハビリ室においても、必要な物品の検討・購入を行った。

(7) 障害者スポーツ・創作活動・生産活動を実施し、楽しみや生きがいを感じられる時間を提供する

- ・ レクリエーション委員会を中心に随時カラオケ大会や映画上映会を実施した。多くの利用者を集まっていたき、楽しみを共有していただくことができた。
- ・ 今年度は特に障害者スポーツ（ボッチャ）の実施と評価を強化し、月1～2回の頻度で実施。利用者の方々にも継続的に参加していただくことができた。次年度も多くの利用者が積極的に離床され、参加したいと感じていただけるように活動内容を検討し実施する。
- ・ 作業療法士と作成した作品を展示会に出品した。会場に足を運び喜びを感じていただき、更なる創作意欲の向上につなげることができた。

(8) 利用者の直接の声を聞き、社会参加を進めることで、日常生活における満足度の向上を図る

- ・ 今年度も外出意向が多数聞かれた。外食や買い物、スポーツ観戦など希望に基づき外出計画を立案した。（30年度に実施した外出支援は以下の通り）

- ・ 地域移行に関する意向確認をサービス管理責任者は相談支援事業所と連携し、利用者およびそのご家族に確認を行った。今年度も地域移行に関するご要望はなかった。
- ・ 年間行事として、6月・7月・8月・11月に食事会を実施。フレンチトースト・ホットケーキ、かき氷、スイカ、流しそうめん、イタリアンを実施した。入居者の目で調理することで、過程を観て楽しみ、香りを楽しんでいただくことができ、食事に対する満足度の向上につなげることができた。
- ・ 12月に外部のレストランにてクリスマス食事会を開催。入居者3名の方が参加され、通所利用者の方々との関わりや普段とは異なる場所・雰囲気の中で、一緒に食事やゲームを行い、楽しい時間を過ごすことができた。

#### 【平成30年度の外出実績】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
実施回数	4	5	6	4	0	2	5	6	1	1	1	3	38回
延べ利用者数	5	5	11	5	0	2	5	6	3	1	1	3	47名

#### 【平成30年度の外出先例】

分類	外出先 例
外食	イオンモール店内・喫茶店・グリル四日市（クリスマス食事会）
買い物	イオン菰野・イオン東員・イオン鈴鹿・イオン尾平・イオン四日市北・ピアゴ菰野店
観光	二見シーパラダイス（伊勢）、名古屋駅近辺、桑名さんぱち市
スポーツ観戦	名古屋ドーム（プロ野球観戦）
趣味 娯楽	県立博物館・荒神山観音寺・パラミタミュージアム・ユニー会館・シダックス・カラオケゆー坊
その他	愛知県立名古屋特別支援学校（母校訪問）・花見 など

#### (9) 利用者の身体機能の維持・向上ができ、活動的に過ごしていただけるよう努める

##### ・理学療法

リハビリテーションを必要とされる利用者に対し、複数のリハ専門職によるニーズ把握に努め、リハビリテーション計画を立案、各種機能訓練を実施した。また、生活指導および環境整備等、部門内において連携を高め、多角的なアプローチの実践に努めた。引き続き、それぞれの役割や専門性を活かしつつ、多職種連携を進めていく。

#### (10) 利用者の自立・権利擁護の視点に立ったリハビリテーションの実施に努める

##### ・作業療法

身体機能の維持向上を目指し個別の機能訓練を実施。月・水曜日には集団および個別での創作活動を実施。希望者も多数おり意欲的に取り組む姿勢がみられた。芸術文化祭へ作品を出展することで創作意欲の向上につなげることができた。

(11) 職員のケアの質と専門性の向上、利用者、家族等との良好な関係を築き上げるための教育訓練を実施する

- ・ 安心して生活していただける環境を提供できるように、コミュニケーション能力の向上と接遇マナーに関する更なる意識の向上を図った。重要な事柄であるため、次年度も外部研修に参加し、内部研修を実施する。(30年度に実施・参加した内外研修は以下の通り)

【平成30年度 介護看護入居部門 施設内専門研修】

実施月	対象職員	内容
4月	生活支援員	身体状況に応じた介護技術を身につける(実技講習)
5月	生活支援員	接遇マナーについて
6月	生活支援員	精神障害の理解と対応
7月	生活支援員	認知症に関する知識および認知症ケアについて
8月	リーダー	リーダーに求められる資質とは
1月	生活支援員	発達障害(自閉症)の理解と対応
適宜	新人職員 異動職員	新人職員研修、入職1カ月研修 個別支援計画書の作成方法、腰痛予防に向けた安全な介護技術

【平成30年度 介護看護入居部門 施設外専門研修】

実施月	対象職員	内容
5月	サービス管理責任者 副主任	奈良・三重支部サービス管理責任者連絡会(1名) アサーティブコミュニケーションを学ぶ(1名)
6月	副主任 生活支援員	社会福祉施設における防災研修(1名) 京滋奈三重サブブロックQOL委員会(1名)
7月	生活支援員 サービス管理責任者	全国身体障害者施設協議会研究大会(1名) 奈良・三重支部サービス管理責任者連絡会(1名)
8月	生活支援員	京滋奈三重サブブロックQOL委員会(1名)
9月	リーダー	キャリアパス対応生涯研修課程リーダーコース(1名)
10月	生活支援員	京滋奈三重サブブロックQOL委員会(1名)
11月	サービス管理 責任者	奈良・三重支部サービス管理責任者連絡会(1名)
12月	副主任 生活支援員	障がい者への意思決定支援(1名) 京滋奈三重サブブロックQOL委員会(1名)
1月	生活支援員	三重県障害者虐待防止法・権利擁護研修

2月	生活支援員 サービス管理 責任者	京滋奈三重サブブロックQOL委員会（1名） 奈良・三重支部サービス管理責任者連絡会（1名）
----	------------------------	--

(12) 職員の意欲が維持・向上される環境づくりに努める

- ・ 新人職員において未経験者には日誌の記入を依頼し、不安や疑問に対しては、都度確認できる環境づくりに努めた。6か月間毎月の聞き取りまでにはいたらなかったが、チームリーダーを中心に意見交換が行いやすいように、積極的に新人職員への声掛けを実施した。
- ・ 主任副主任は各職員の個別聞き取り調査を随時実施した。意見交換を図る中で、助言や労いの言葉がけを行い、意欲の向上と職場への定着につなげられるように努めた。

(13) 適切な防災計画の策定と、地震、風水害などの緊急時等に負傷者の救護ケアの提供が速やかに対応できる体制の構築を目指す

- ・ 障害者支援施設に併設している特別養護老人ホーム、ケアハウス等とともに年3回以上の防災訓練を実施した。
- ・ 緊急時においても酸素吸入や吸引機が使用できるように発電機の整備・点検を実施した。また、災害時においても迅速に的確に避難できるように体制づくりに努めた。
- ・ 社会福祉施設における防災研修（外部研修）に参加し、その伝達講習に努めた。

(14) 施設安定経営と、適切なサービス提供のための施設利用者率を確保する

- ・ 日々の感染予防をはじめ、看護職員、管理栄養士、生活支援員で協力し適切な健康管理を行うことで入院者の減少に努めた。ベッド年間平均稼働率は94.3%。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働率	95.0	96.1	95.9	95.2	95.1	93.9	91.3	94.2	94.7	93.0	92.8	93.8	94.3
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%

## 2.短期入所支援事業

(1) 利用者に安心・満足して頂けるケアの提供

- ・ 計画相談支援事業所とも連携し、ご家族やご本人の意向を確認しながら個別支援計画書を作成。計画書に基づく支援を実施することで利用者が安心して過ごすことのできる支援体制づくりに努めた。

(2) 在宅での生活状況に合わせたサービスの提供

- ・ サービス管理責任者は随時ご家庭での生活環境を確認し、可能な限りご家庭に近い居住環境を提供できるように努めた。利用中のご生活をお伝えすることで、改善すべき環境を確認し、より一層利用者・家族のニーズに沿った支援を実施することができた。

- (3) ご家族や他事業所との連絡・連携、相談体制の充実
- ・ サービス担当者会議から得た情報を共有することで、安心して生活していただける環境づくりにつなげることができた。
  - ・ 他事業所との共通利用者に関しては、興味を示される活動や課題等の情報を共有することができ、サービスの質の向上につなげることができた。
- (4) 通所との情報共有と連携、サービス内容の統一化
- ・ サービス管理責任者は通所併用利用者に提供しているサービス内容について、双方に都度確認し合い、可能な範囲で統一されたサービスを提供していけるように努めた。合同カンファレンスに関しては、継続的な実施にはいたらなかった。
  - ・ 併用利用者の希望に応じて可能な範囲で通所部門との連携を図ることで、短期入所利用時における活動の幅を広げていけるように努めた。
- (5) 日中活動（文化・娯楽・創作・生産活動等）の充実
- ・ 興味を示される活動に関して聞き取りを行い、個別支援計画を作成。充実した日中活動が提供できるように努めた。
- (6) 満足していただけるサービスの提供を目指して
- ・ 利用者により良いサービスを提供するため、より安定した経営・運営を図る必要性があることから、年間平均稼働率 98%以上を目標値としていた。今年度は 96.4%と目標値を上回ることができなかった。
- (7) 職員のケアの質と専門性の向上、利用者・家族との良好な関係を築き上げるための教育訓練を実施する
- ・ 接遇マナーや不適切ケアに関する研修等を実施。利用者・家族が安心してサービスを利用できるように努めることができた。利用者・家族とのコミュニケーション能力の向上が必要不可欠であることから、今後も様々に研修機会を設けていく。

### 3.生活介護・日中一時支援（通所部門）

#### 1. 事業概要

##### 1) 営業日および利用時間

月曜日～日曜日：午前9時～午後5時

##### 2) 利用定員 15名

##### 3) 利用対象者

現在お住まいの市町村で、自立支援法に基づく支給決定を受けた方を対象。

#### 2. 運営の基本方針および事業目標

鈴鹿聖十字会共通理念である「利用者に最も有利なサービスを提供する」のもと、利用

者の日常生活および社会生活がより快適で安心できるものとなるように最大限の支援に努めることを基本方針とし、利用者一人ひとりの生活暦や価値観・個別性を尊重し、利用者の満足度の向上および自律促進を図ることを事業目標とした。

具体的には、アットホームで楽しい雰囲気の中での食事やリラックスできる入浴、同性介護を基本とした排泄、快適な送迎サービス等の実施、障害の程度に関わらず誰もが参加・活動できるレクリエーションの実施、創作活動・生産活動の機会の提供、理学療法士・作業療法士によるリハビリテーションの実践、季節感を感じられる行事の開催、地域交流や社会参加を促進し、ご希望を反映させた外出計画の立案・実現に努めることで、利用者の在宅生活がより充実し自律を目指したものとなるように支援に努めた。

人材育成では職員個々が持っている能力や特性を伸ばすことができるようにサポートするとともに、職員間の情報共有および共通認識を高めることで、より良い対応や施策につなげ、個々のスキルアップだけでなく、チームの支援力の向上を図った。

### 3. 具体的な事業計画およびその内容

#### <生活介護事業>

(1) 個々のニーズに応じたサービス提供を実施し、利用者一人ひとりの満足度・自律促進を高める。

- ・利用者一人ひとりが最も快適に過ごすことができるように、その方の声に耳を傾け、想いに共感し、課題を乗り越え、意思決定できるように努めた。
- ・利用者一人ひとりのご希望に応じたサービス提供を実施するために、利用者・ご家族との情報共有や関係性構築に努めた。
- ・ご本人およびご家族への希望確認の聞き取りを丁寧に実施するとともに、その方の長所や強みに着目し自律を高めていけるように個別支援計画書を作成した。また、利用者一人ひとりのニーズやご要望に沿うことができるように、モニタリングの記入や評価の実施に努めた。
- ・苦情にまでは至らなかったが改善の余地が見られた事柄についての報告書(チャンスカード)を4件挙げ、周知・注意喚起を図り対応改善策を講じることで、利用者サービスの向上および業務改善につなげられるように努めた。
- ・相談支援事業所によるサービス等利用計画が立案されている利用者の担当者会議に全出席し、ご家族や他事業所等との情報交換・連携を図るだけでなく、会議の内容を書面で周知し、職員間の情報共有および共通認識を高めることで、サービスの質の向上につなげられるように努めた。
- ・毎月実施しているミーティングにて、各利用者についての状態・支援内容等を多職種を交えて確認し、職員間の情報共有および共通認識を高めることで、サービスの質の向上につなげられるように努めた。
- ・利用者、ご家族のご希望やご事情に応じて、利用回数や利用時間の拡大や入浴・送迎サービス利用調整に努めた。
- ・利用者それぞれが求めるニーズの提供につなげていけるように、職員それぞれが得た

情報を口頭や連絡ノートを用いて情報共有を行い、より良い支援につなげていけるように努めた。

- ・ ご家族がご本人のご様子をより把握しやすいように、日中活動や行事、クラブ活動等の状況の伝達に努めた。活動への参加や写真撮影等、ご本人の意向確認が取りにくい方に関しては、事前にご家族への確認を実施した。
- ・ 当施設の短期入所を併用利用されている利用者に対して、入居部門との情報共有および協力体制を強化することで、ご本人・ご家族がより快適に有益にご利用していただけるように努めた。

(2) 送迎サービスや介護全般に係るリスクマネジメント管理を適切に実施し、利用者の安全・安心を確保する。

- ・ 発生した事故や苦情等は、原因・要因や対応改善策を多角的に検討・協議し、その再発防止に努めた。また、対応改善策の継続性を保つために定期的な評価や業務調整・注意喚起を図ることで同様の事故や苦情の発生防止に努めた。
- ・ 「発生してしまった事故や苦情にどのように対応し是正していくのか」だけでなく、「日々の生活支援のなかで、どのような気づきや危険予測を行なうことができるのか」といった視点のもと、積極的にヒヤリハット報告書を18件挙げ、利用者の安心や安全の確保に努めた。
- ・ 毎月の法人リスクマネジメント委員会に参加し、全部門で発生した事故や苦情等について検討・協議し、その内容を水平展開することで、同様の出来事を発生させないように周知・注意喚起に努めた。
- ・ 平成30年度に発生した事故件数は3件（介護事故0件、車両事故3件）、苦情は1件。どれも目標数値内に留めることができた。
- ・ 車両事故については是正を図るため、外部（自動車学校開催）の「安全運転講習」に参加した。また、その伝達講習を実施し、添乗者における安全確認方法、および注意項等についても、送迎にあたる職員全員への周知・注意喚起を図った。
- ・ 利用者にとってより良い対応やサービスを提供できるように、「摂食嚥下障害の理解と誤嚥性肺炎の予防」や「障害者への意思決定支援」等の研修を実施した。また、その方の真の想いを汲み取ることができるようコミュニケーション方法の改善に努めた。
- ・ 職員全員が今年度事業所として取り組むことを理解した上で、支援・サービス提供が行えるように、適時職員個々への指導教育の機会をもてるように努めた。
- ・ 毎朝のバイタル測定値に留意するとともに、いつもと異なる数値や状態等が見られた際は、看護師およびご家族への報告や状態に応じた適切な対応に努めた。
- ・ 衛生感染対策委員会からの通達を参照し、インフルエンザや胃腸風邪等の感染症の発症、拡大防止に努めた。今年度においても施設内感染等は見られなかった。
- ・ 当施設の短期入所支援を併用利用されている方に対しては、入居部門との情報共有を図ることで、事故や苦情の発生を未然に防ぐことができるように努めた。

(3) 日中活動、余暇活動、レクリエーション、グループ活動等の拡大・充実を図るとともに、季節行事や外出支援、社会適応訓練等を実施する。

- ・ 現在ご好評を受け取り組んでいる文化的活動、創作活動、レクリエーション等は継続しながら、随時新しい活動内容のご希望等が見られないかの確認に努めた。
- ・ 昼食前に口腔体操・鈴やタンバリンなどを鳴らしながら歌を歌い皆さんに気分転換や嚙下力向上に努めた。
- ・ レクリエーションを利用者に楽しんでいただけるよう、その都度ルールを変更したり、新しいゲームを考案し、連携を図りながらレクリエーションが盛り上がるように努めた。
- ・ インターネットを接続できるテレビが設置されたのでそれを活用し、音楽や動画をレクリエーションに取り入れ楽しむことができるように努めた。
- ・ 年間行事についてはミーティング時に良かった点・改善点等の評価を行い、次の取り組みに活かしていけるように努めた。また、事前準備や催し等のシミュレーションを実施することで、より充実した行事を開催することができた。
- ・ 生産活動的な取り組みとして、通所事業所においても陶芸クラブを実施し、各々の能力を発揮しながら楽しみをもって作品づくりに取り組んでいけるように努めた。定期的に展示即売会に参加し、自身の作品が展示・販売されているご様子を見学することで、次回の創作意欲へつなげていただけるように努めた。
- ・ 2ヶ月に一度希望の利用者を対象に有料ボランティアの方によるアロマセラピーの開催に取り組んだ。癒しやリラックスできる時間の提供だけでなく、外部の方との関わりを持つ機会にも繋がり、利用者やご家族に喜んでいただくことができた。
- ・ 月間カレンダー作成の中に来月のレクリエーションの予定表や先月の行事のご様子等と季節の健康情報を取り込みご家族の方にわかりやすい情報提供に努めた。
- ・ 12月に外部のレストランにてクリスマス食事を開催。通所利用者10名、利用者家族12名の方をお招きし、普段とは異なる場所・雰囲気の中で、一緒に食事やゲームを行い、楽しい時間を過ごすことができた。

(4) 職員個々のスキルアップを図り、チーム全体の支援力を高める。

- ・ 職員個々のスキルアップや事業所全体のレベルアップを目的とした内部研修を年5回実施した。個々に抱えている困難ケースや日々の業務において感じている課題や改善点等について、職員全体で検討する取り組み（ケアカンファレンス）を年6回実施した。また、翌月ミーティングにて1ヵ月評価を行い、その後の状況確認および継続性の確保に努めた。
- ・ 外部研修については、職種に応じて積極的に参加し、それぞれが学び得た内容について、ミーティング時に発表し他職員へ伝達講習することで、専門性の向上に努めた。
- ・ 職員個々に目標を設定し、1年を通じてその実践に努めた。内容としては、半年ごとにその経過状況や目標の達成度合いを通所部門長と面談にて確認し、職員のスキルアップや意欲向上につなげていけるように努めた。

(5) 介護・看護・リハビリ部門との連携・協力体制を高め、より良いサービス提供につなげる。

- ・ 毎月実施のミーティングおよびリハビリテーションカンファレンスや2カ月に一度開催しているケアカンファレンスの機会を通じて、今利用者が抱えている課題や支援内容等の評価・モニタリングを多職種間で確認し、サービスの質の向上につなげられるように努めた。
- ・ 日々のリハビリだけではなくPT研修として「摂食嚥下障害の理解と誤嚥性肺炎の予防」をテーマに実施し研修後食事介助や口腔ケア(歯ブラシ交換)等利用者の方が安心できる支援に職員全体で取り組んでいくように努めた。

<日中一時支援事業>

児童に対するサービス内容の充実を図る。

- ・ 障害児童に提供しているサービス内容について、どのように関わりを持って支援していくことが適切であるのかを検討し、また、安全で快適な場所の提供につなげていけるように努めた。
- ・ 障害特性の理解を深める研修を行うことで身体障害のみならず、知的障害および自閉症の方に対する理解も深め、日々の生活支援に活かしていけるように努めた。
- ・ 学校でのご様子等の情報収集を行なっていくため、特別支援学校の先生との連携を図りながら、職員全体での情報共有・共通認識を図った。

【平成30年度 参加した外部研修】

5月	・アサーティブコミュニケーションを学ぶ(1名) ・奈良・三重支部サービス管理責任者連絡会(1名)
6月	・京滋奈三重サブブロックQOL委員会(1名)
7月	・安全運転セミナー(1名) ・ほくせい地域福祉学習会(1名) ・奈良・三重支部サービス管理責任者連絡会(1名) ・全国身体障害者施設協議会研究大会(2名)
8月	・京滋奈三重サブブロックQOL委員会(1名)
9月	・キャリアパス障害研修課程「チームリーダー」コース(1名)
10月	・京滋奈三重サブブロックQOL委員会(1名)
12月	・「障がい者への意思決定支援」(1名) ・京滋奈三重サブブロックQOL委員会(1名)
2月	・京滋奈三重サブブロックQOL委員会(1名)

【平成 30 年度 実施した内部研修】

4 月	・職員個人目標の達成に向けて ・「障害者総合支援法 30 年度改正を踏まえて今年度取り組むこと」
5 月	・利用者に安心・満足いただくためのサービス提供に向けて (ケアカンファレンス)
6 月	・「摂食嚥下障害の理解と誤嚥性肺炎の予防～口腔ケアを中心に～」
7 月	・利用者に安心・満足いただくためのサービス提供に向けて (ケアカンファレンス)
8 月	・「職員相互の連携を密にし、利用者が安心され、満足されるサービスを提供するために」
10 月	・利用者に安心・満足いただくためのサービス提供に向けて (ケアカンファレンス)
11 月	・利用者に安心・満足いただくためのサービス提供に向けて (ケアカンファレンス)
12 月	・「障がい者への意思決定支援」 ・個別面談（全職員）
1 月	・利用者に安心・満足いただくためのサービス提供に向けて (ケアカンファレンス)
2 月	・「発達障害(自閉症)・精神障害の理解と対応」
3 月	・利用者に安心・満足いただくためのサービス提供に向けて (ケアカンファレンス) ・職員個人目標の達成に向けて-評価・反省-

4. 年間行事

【平成 30 年度 行事内容】

月	主 な 行 事	月	主 な 行 事
4 月	花 見	10 月	ハロウィンパーティー
5 月	家 族 交 流 会 外 出 支 援	11 月	運 動 会 外 出 支 援
6 月	外 出 支 援	12 月	ク リ ス マ ス 会
7 月	七 夕 会	1 月	餅つき・新年会・お茶会
8 月	納 涼 会	2 月	豆まき バレンタインイベント
9 月	家 族 交 流 会	3 月	ひな祭り

※映画鑑賞会は、その時の流行や希望等を考慮し、毎月 1 回実施した。

【平成 30 年度 外出支援の一例】

買い物	イオンタウン菰野（4名） イオンモール東員（19名）
観 光	名古屋市科学館（3名） 刈谷ハイウェイオアシス（3名） 愛知航空ミュージアム（5名） コスモス畑（11名）

※外出支援の行先については、利用者からのご要望を取り入れながら、定期的に計画を立て、社会参加や地域交流の機会を提供していけるように努めた。

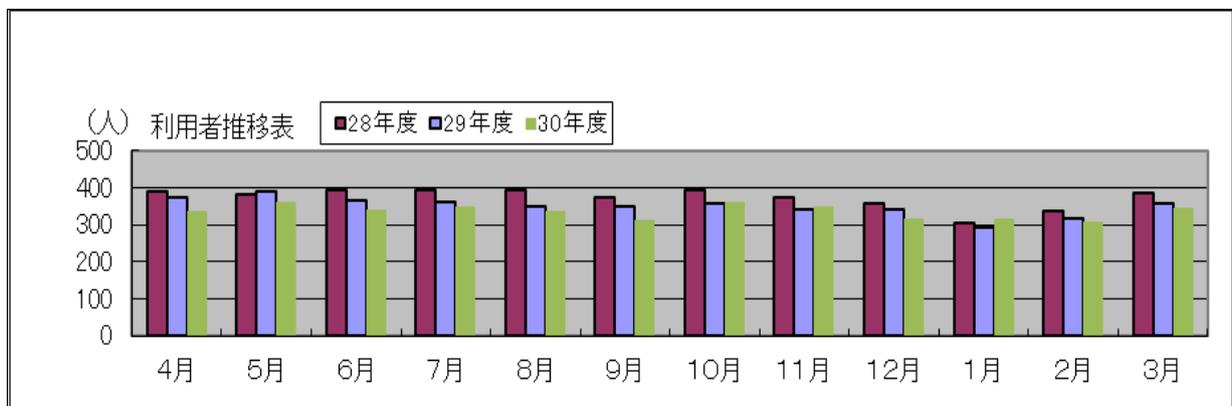
5. 月別利用者数

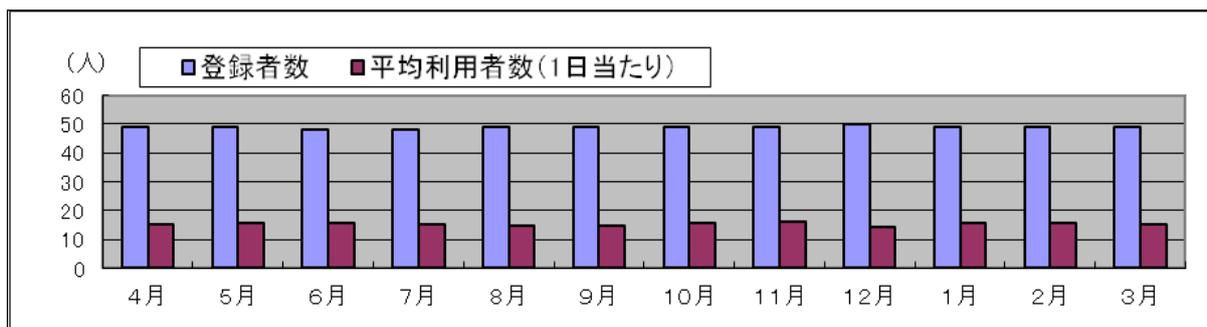
<生活介護事業>

(単位：人)

生活介護事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
登録者数	49	49	48	48	49	49	49	49	50	49	49	49		48.92
平均(1日)	15.3	15.7	15.6	15.3	14.7	14.9	15.7	15.9	14.4	15.8	15.5	15		15.3
稼働率	101.9	104.3	103.9	101.7	98	99	104.6	105.8	96.1	105	103.3	100.3		102.0
30年度利用者数	336	360	343	351	338	312	361	349	317	315	310	346	4,038	336.5
29年度利用者数	374	391	366	361	350	348	357	341	343	294	315	356	4,196	349.7
28年度利用者数	389	381	393	393	393	373	393	375	358	303	336	385	4,472	372.7





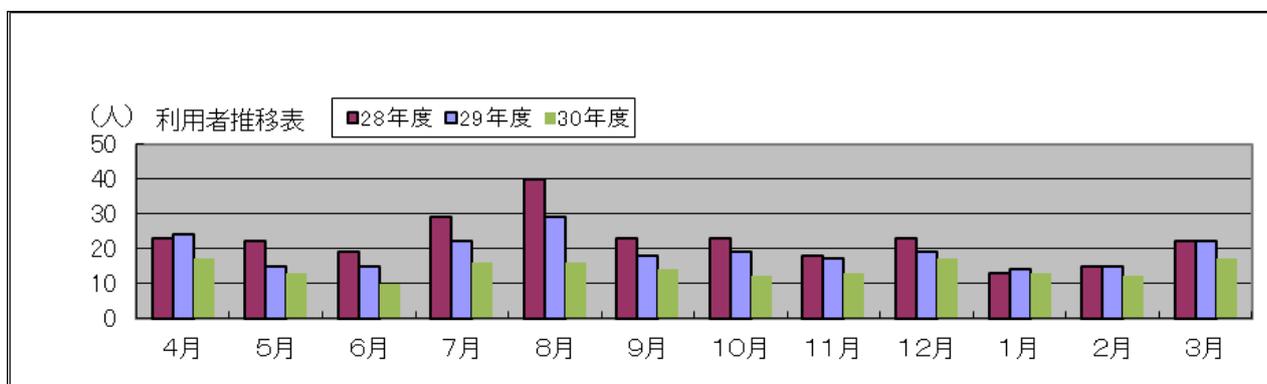
※平成30年度生活介護事業の新規利用者は名。年間平均稼働率は、国の基準である－8日計算において102.0%。

<日中一時支援事業>

(単位：人)

日中一時支援事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
30年度利用者数	17	13	10	16	16	14	12	13	17	13	12	17	170	14.2
29年度利用者数	24	15	15	22	29	18	19	17	19	14	15	22	229	19.1
28年度利用者数	23	22	19	29	40	23	23	18	23	13	15	22	270	22.5



※平成30年度の利用者延べ人数は170人。引き続き、新規利用者の確保が課題である。

## 特定相談支援事業・障害児相談支援事業

### I. 事業内容

特定相談支援事業・障害児相談支援事業

### II. 運営の基本方針および事業目標

地域で暮らす障害のある人が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるように、サービス等利用計画についての相談及び作成などの支援、また障害者（児）の抱える課題の解決や適切なサービス利用に向けて、ケアマネジメントによりきめ細かく支援することに努めた。

### III. 具体的な事業計画およびその内容

- (1) 利用者に安心・満足していただける相談対応とサービス等利用計画を作成する。  
面談機会を多く持つことで利用者に丁寧に寄り添い、ストレンクスや生活状況やサービス事業所の利用状況等の確認に努めた。またサービス事業所の支援・サービスに対する御家族様の不安や疑問、また不満等を詳細に把握し、事業所と密接に連携することで安心して利用していただけるように努めた。
- (2) 在宅生活を送っておられる利用者の相談にも積極的に応じ、サービス等利用計画作成数を増やす。市町役場や他の相談支援事業所との連携を図り、特定相談支援10名、障害児相談支援4名の新規利用者を受入れ、在宅生活を送られている利用者の総数としては特定相談28名、障害児相談13名となった。なお、施設入居者を含めると、相談支援専門員1名での契約数は、平成30年度末で特定相談83名、障害児相談13名、合計96名となっている。
- (3) 相談支援事業に求められる役割を十分に理解して運営・実務を行い、利用者の確保と信頼関係の構築を図る。外部研修へは積極的に参加するとともに、四日市圏域自律支援協議会相談支援部会は欠かさず出席するなど、他の相談支援事業所の相談支援専門員との交流や連携に努めた。また施設のサービス管理責任者だけでなく、生活支援員や看護職員、またセラピスト等からも積極的にサービス提供状況を確認し、支援の方向性や改善に関する相談や協議に努めた。

平成30年度  
特別養護老人ホーム 菰野聖十字の家  
事業報告書

I. 事業内容

1. 特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設） 定員90名
2. 居宅介護支援事業
3. 老人短期入所施設事業（短期入所生活介護） ※併設型・空床型

II. 介護老人福祉施設

1. 運営の基本方針および事業目標

施設建物の老朽化に伴い、高齢者の尊厳を保持し住居環境を改善するため、施設敷地内に個室・ユニット型施設を増築し、入居定員90名のうち60名分を増築施設に移行する計画を進め、11月に着工した。なお、残り30名分は既存施設にて従来型特養として継続する。このことに関し、ご家族へは丁寧に状況提供を行い、ご理解を得ながら満足していただけるサービスを提供できるよう説明に努めた。

終末期ケアに関して、その方が望む最期を迎えていただけるように、ご家族と密にコミュニケーションをとりながら看取り介護を行った。認知症があり混乱や不安になられている方に対しては、その思いに共感し、寄り添い、丁寧な対応を心掛けた。

施設における内部研修については毎月実施し、レポートを提出させることで効果的な学びとすることができた。外部研修にも可能な限り参加し、職員のモチベーションとスキルのアップを目指し、入居者様の満足度向上に貢献できる職員を育成するよう努めた。

2. 具体的な事業報告

(1) 【ユニットケアに向けての準備を行う】

職員個々の特性を見ながら、ユニットケアに向けての人員配置の検討やユニットリーダー研修を含む各種研修にも参加することができた。

- ①ユニットリーダー研修2名修了。
- ②ユニットケアに関する内部研修については、ユニットリーダー研修に参加した職員が講師役となり実施したが、全員の実施はできなかった。
- ③法人内のユニット型施設に協力依頼をし、施設見学を行った。
- ④施設長・相談員・介護・栄養調理・事務の各主任を中心に準備委員会を定期的に開催し、開設に向けた準備を行った。
- ⑤年度初めから入居者のご家族に対し丁寧な情報提供を行い、ユニット型希望と従来型の希望を伺い、ユニット移行後の混乱の防止と稼働率の維持ができるように準備を行った。

## (2) 【質の高いケアの提供】

特養での生活において、より質の高いケアを提供し、心身ともに健康で穏やかな生活が送れるようなサービスの提供に努めた。

- ①言語的・非言語的コミュニケーションを活用し、援助の際は丁寧に声を掛けながら実施するよう努め、毎月のミーティングで丁寧な言葉がけができていたか振り返りを行った。
- ②入居者の体調管理については、ケアワーカー・看護師連携のもと日々の観察やコミュニケーションから入居者の方の小さな変化を見逃さず、迅速で適切な対応を行うよう心掛けた。
- ③生活動作訓練など生活リハビリとして可能な限り体を動かしていただき、残存機能の活用や精神活動性を維持するため様々な活動への参加を促すなど生活機能が向上するよう援助した。
- ④ADLが低下されている方については、心身の状態や身体的特徴、皮膚の状態、栄養状態などを把握し、適切な時間・方法で体位交換を実施することで安楽な体位を提供し褥瘡予防に努めたが、終末期の過程で栄養状態が思わしくなく1名褥瘡が発生した。褥瘡があった状態で入居された方が2名いたが、現在は完治となっている。

## (3) 【食事満足】

他職種と連携し食に関する取り組みを充実させ、美味しく、安全に召し上がっていただける食事を提供し利用者満足につなげることができた。併せて給食センターに働きかけ、療養食の提供に取り組んだ。

- ①食事満足度向上委員会やチームMで食事形態の見直しや改善、献立について話し合うことで、より美味しく安全な食事を提供することができた。
- ②栄養モニタリングの充実を図り、他職種と連携しながら入居者の栄養状態の改善を目指した。また体重測定を毎月実施し体調管理に反映できた。健康管理において、できるだけ口から食べる楽しみの支援を行うため、他職種連携で安全な食の提供に努力した。

## (4) 【認知症ケア】

認知症ケアについて、認知症から来る混乱や不安、リスクを軽減できるよう以下の①～④について取り組んだが、場面によっては専門職として不適切なものも見られ、その都度リーダーや主任・副主任によって指摘、修正を繰り返した。

- ①丁寧な言葉がけを行い、認知症の方が安心して生活できるよう支援することに努めた。対話や傾聴の重要性をしっかりと認識し、その言動に共感し親身な対応を行うよう努めた。
- ②職員は認知症の方の対応で感情のコントロールを意識し、専門職としていつも冷静かつ温和に対応するよう心掛けた。
- ③12月の内部研修で「認知症に関する知識及び認知症ケアに関して」を実施した。  
また、認知症委員会を隔月開催し、認知症ケアに関する知識を深め専門性の向上を図った。
- ④認知症ケアについて多職種や部署を越えて情報共有し、協力してケアしていくよう努めた。

## (5) 【看取りケア】

施設での看取りを望まれる入居者・家族の方が安心して終末期を過ごしていただけるようケアの充実を図ることに努めた。

- ①ターミナルケアを行う際は、入居者の家族に対して看護師・主任・生活相談員等の担当職員から丁寧に状態の説明を行い、ご家族の不安を軽減できるようコミュニケーションを密にした。
- ②終末期は入浴ができないことが多いため、整容を基本とし清潔保持に努め、口腔内の保清にも努めた。
- ③お亡くなりになった後は、デスカンファレンスを通じて、看取りケアを振り返り入居者の方を偲ぶと共に職員の気持ちを整理することに努めた。ターミナルケアを開始する際は、医師、看護職員、ケアワーカー（主に主任、副主任）が状態の説明を丁寧に行い、入居者・家族の方が抱かれている懸念を真摯に受けとめ、今後の対応について話し合いを行った。この取り組みにより、ご家族の不安を軽減し、その方が本当に望まれる最期を迎えていただける援助ができたのではないかと感じている。

#### (6) 【リスクマネジメント】

リスクマネジメントについて、入居者が安全かつ安心して生活できるよう、事故防止、感染症の防止、食中毒の防止に取り組んだ。また精神的苦痛を伴う身体拘束の廃止や虐待の予防にも積極的に取り組んだ。

- ①事故、ヒヤリハットが発生した際は迅速に報告書を提出し、情報を共有し再発予防に努めることができた。またリスクマネジメント委員会にてヒヤリハットや事故の報告を行い、対応策等について他部署間で意見交換を行い、再発の防止やリスクの軽減につなげることができた。
- ②入居者の食前の手指消毒、食後のテーブル消毒を実施し、感染症の流行する時期は、テーブルや手すり、ドアノブなど人がよく触る箇所の消毒や室内の換気、加湿を徹底的に行った。また疑わしい場合は『院内感染・食中毒予防マニュアル』に沿って迅速に対処したことで、拡大を防御する事ができた。
- ③職員が感染症の媒介者とならないよう、手洗い・手指消毒・うがいなどの事故管理の指導を行ったが、数名がインフルエンザに罹患した。その際には感染拡大防止対策として、発病した職員への指導を行った。（入居者の発症は無し）
- ④身体拘束を排除する取り組みに努め、やむを得ず行わなければならない場合は、経過を確実に記録し、毎月リスク委員会及びチームMにて再検討を行った。
- ⑤虐待や不適切ケアにつながる恐れのある言動等については、小さなことでも指導の対象とし、その都度上司により対応修正の声掛けや話し合いを行うことができた。

#### (7) 【環境整備】

入居者の方が安全かつ清潔で快適な空間で、居心地良く過ごせるように環境の整備に力を入れ、利用者満足向上に取り組んだ。

- ①毎回入居者の離床後は掛け布団をきちんと畳む、シーツのしわを伸ばす、などベッドメイ

クを実施、臥床後はシーツや衣類のしわを伸ばす、上着は畳んで車椅子の上に置く、靴は足元に揃えて置く、などを徹底した。特に居室の棚の上は本人にとって大事な物（例えば家族の写真や趣味の作品など）を置くスペースとし、脱いだ上着や膝掛けなどを置かないように努めた。

また離床時には、上着のボタンをとめる、寝癖を直す、眼脂を拭くなど身だしなみに整えることを徹底し、髭剃りにも配慮した。

掃除については、作業職員による居室・廊下・ホールの水拭き、モップ掛け、廊下の掃除機掛け、集合トイレ・個室トイレ・ポータブルトイレの掃除・消毒、居室の棚のダスキンモップ掛け、洗面台の掃除、4月と9月には窓拭き、蜘蛛の巣掃除、中庭の草刈り、フロアマットの交換などを実施した。

臭いについては、居室・トイレ・廊下など清潔な環境になるよう留意し、オムツ交換後など排泄介助後には消臭スプレーを振り、居室には消臭剤を設置し臭いのエチケットについて配慮、入居者や来園者が居心地良くなるよう努めた。

②温度管理については、定時に温度と湿度をチェックし冷暖房の調整や換気を行った。冬季には加湿器の水が無くならないように努めた。

窓からの明かりが十分な時は部屋の電気を消したり、寝ている入居者の居室は小さな明かりに変えるなど状況に応じて明かりを調整した。

③事故を未然に防ぐため、各種ミーティング等でそれぞれの入居者に合ったベッドサイドサークルや見守りベッドなど福祉機器を活用し、入居者が安全に生活できるよう協議し、整備した。

#### (8) 【モチベーション向上】

職員の業務に対するモチベーションを上げるとともに、職員一人ひとりが意見の出しやすい職場作りを継続した。

①ケアワーカー、看護師を対象に毎月の内部研修レポート内で施設や入居者様、その他の意見を挙げてもらった。挙げられた意見に関してはリーダーミーティングにて施設長、主任、副主任、リーダーで協議し、どのような内容であっても先送りせず、本人に対し、或いはミーティング議事録にて必ず回答した。

②職務上の問題や人間関係の悩みを抱えた職員に対して、上司と話をする場を設け、本人の思いを聞き、一緒に解決策を模索した。また個別面談では頑張っている部分、改善して欲しい部分を率直に伝えて本人に理解してもらい、その上で助言をすることを心がけモチベーションアップに努めた。

③職員には全員に担当や役割を割り振った。不慣れな役割に当たった職員に対しては、リーダーを中心にフォローをしながら年度の最後まで役割を全うしてもらった。

④リーダー業務だけでなく他職員の業務のフォローなど、特に負担の大きかったリーダー職に対しては、コミュニケーションを密にとり、リーダー本人の思いや状態の把握に努めた。

#### (9) 【教育訓練】

職員のキャリアアップを念頭においた研修を実施した。また質の高い援助を実践するための教育訓練を実施し、ケアの質と専門性の向上をはかった。さらにユニット型特養への配置を念頭にユニットケア研修に取り組んだ。

- ①内部研修の実施：法令などで定められている内容や法人の理念の遵守、人権の尊重などの内容の研修を、主任、生活相談員、そして各担当者が講師として資料を作成し、毎月確実に実施し、レポートの提出にて評価を行った。パート職員に対しても資料を共有し、聞き取りにて評価を行った。
- ②外部研修の実施：介護職員の生涯学習やスキルアップなどの内容を吟味し、現場を優先しながらも、年間可能な限り研修に参加した。（詳細はVI. 職員研修の実施状況 - 2. 外部研修に記載）
- ③新入職員の育成：新人教育におけるノウハウを学ぶため、介護リーダー1名がブリスレプター研修に参加した。ユニットの研修に関しては施設長・相談員・介護・栄養調理・事務の各主任を中心に準備委員会を定期的に開催し、開設に向けた準備を行った。

#### (10) 【余暇活動の充実】

文化・教養活動の充実を図り、入居者が作られた作品等は広報誌に掲載したり、部署に飾り付けを実施した。

- ①職員が実施している朗読クラブ、書道クラブ、映画放映は感染症の流行時期以外はほぼ毎月実施でき、余暇活動の充実を図った。
- ②ボランティアの利用については、5月「和楽会」、「イロリバターズ」、「かわず会」、9月の交流会では「ダンディーズヨッカイチ」「宮美会」、10月に「大正琴」の方に来園していただき、多くの入居者の方楽しんでいただいた。
- ③聖マリアこども園との交流会は5月「シャボン玉遊び」、7月「納涼会」、10月「ハロウィンパーティー」、12月「クリスマス会」を実施した。毎年恒例で行っているが、毎回多くの笑顔が見られ、喜ばれる企画であった。
- ④季節を感じられる催しの食事会を開催し、喜んで頂けた。
- ⑤入居者の方が、興味ややりがいを持ってできるもの（折り紙、ぬり絵）など、余対話を重視した余暇活動を実施した。

#### (11) 【家族との信頼関係の構築】

入居者家族とのコミュニケーションを密にとり良好な関係を構築するよう努めた。

- ①来園されたご家族に対して明るい挨拶を心掛け、丁寧な言葉遣いで接し、入居者の近況などを随時報告するよう努めた。また体調不良な入居者に関しては随時電話連絡をし、情報提供に努めた。
- ②職員の過失により入居者に不利益が出た際は、正直に迅速且つ丁寧に状況を電話にて報告

し、真摯に謝罪した。またご家族が来園された際には、再度謝罪し状態の説明や対応・改善策を伝えた。

### (12) 【利用率の確保】

施設運営の安定化を図るため、稼働率の維持に注意した。緊急でのショートステイの受け入れ等も行った。

- ①人事異動により生活相談員の交替が行われたなかで、稼働率の維持に取り組んだ。
- ②空きベッドが生じない管理を徹底し、ベッド稼働率が低下しないよう取り組み、入居・ショートのコストの総合稼働率 99.0%を目指したところ、結果は 98.8%となった。

### 3. 地域との交流

- (1) 入居者・家族交流会（5月・9月：ご家族との交流）
- (2) 盆踊り大会（7月：地域住民・子供会・婦人会との交流）
- (3) 交流運動会（10月：こども園児・地域住民・老人クラブとの交流）
- (4) 認定こども園との交流会（5、7、10、12月：聖マリア認定こども園児との交流）
- (5) その他協力校等との連携により、以下のボランティア体験、実習等を実施した。
  - ①三重県社協 介護等体験事業（教員免許特例法による介護等体験事業）
  - ②聖十字看護専門学校（老年看護学実習）

### 4. 年間行事

4月	桜のお花見、藤のお花見
5月	家族交流会、こども園との交流会
6月	お楽しみ食事会・防災訓練
7月	盆踊り・かき氷（毎週火曜）・こども園との交流会
8月	かき氷（毎週火曜）
9月	敬老の日家族交流会・お楽しみ食事会・かき氷（毎週火曜）
10月	運動会・コスモス見学・こども園との交流会
11月	お楽しみ食事会（焼き芋→中止）・防災訓練
12月	クリスマスイヴ礼拝・クリスマス会・こども園との交流会
1月	入居者新年会・餅つき（こども園のみ開催）
2月	節分（豆まき）・初釜
3月	お楽しみ食事会

その他、ボランティアを含め、施設内・外の行事を多数実施した。

### 5. 職員研修の実施状況

#### (1) 内部研修

##### ①専門職研修

対象者：介護・看護職員

講師：施設長・主任・生活相談員・栄養士・リスクマネジメント委員等

- 4月 高齢者虐待防止について
- 5月 介護職員が実施する吸痰について
- 6月 身体的拘束等の排除のための取組みに関して
- 7月 医療に関する知識・褥瘡予防のケアについて
- 8月 高齢者の権利擁護について
- 9月 利用者等のプライバシーの保護の取組みについて
- 10月 24時間連絡体制について
- 11月 「感染症の発生及び食中毒」の予防及びまん延の防止に関して
- 12月 認知症に関する知識及び認知症ケアに関して
- 1月 事故の発生予防・事故の発生等緊急時の対応について
- 2月 看取りについて、身体拘束適正化について
- 3月 ハラスメントについて

## (2) 外部研修

外部研修としても介護職員の生涯学習やスキルアップ等の内容を吟味し、年間10回（本館・新館合計）以上参加することができた。

### ①三重県社会福祉協議会主催：社会福祉施設職員研修

- ・中堅職員研修Ⅲ（実施月7月）
- ・キャリアパス生涯研修 中堅職員コース（実施月9、10月）
- ・キャリアパス生涯研修 チームリーダーコース（実施月9月）

### ②その他

- ・ユニットリーダー研修（実施月5、8月）
- ・介護福祉士プリセプター研修（実施月12月～1月）
- ・地域権利擁護支援研修（高齢者虐待防止）実施2月
- ・ユニットケアフォローアップ研修（実施月12月）
- ・認定調査会実施研修会（実施月4、5月）

## 6. 資料

### (1) 月別入居者数（平成30年度）

#### ①特別養護老人ホーム

区分	月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
月初人数		90	90	90	89	89	90	90	90	89	89	90	90	-
入居		1	1	4	1	4	2	1	1	3	4	0	0	22
退所	死亡	1	1	3	0	2	2	1	2	3	2	0	1	18
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	他施設	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	4

### (2) 年齢別男女入居者数

平成31年3月31日現在

	64歳以下	65歳～ 69歳	70歳～ 79歳	80歳～ 89歳	90歳～ 99歳	100歳 以上	合計
男性	0	3	7	6	5	0	21
女性	1	3	11	27	25	2	68
合計	1	5	18	33	30	2	89

※平均年齢85.6歳

### (3) 要介護度別男女入居者数

平成31年3月31日現在

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
男性	0	1	4	14	2	21
女性	0	0	14	24	30	68
合計	0	1	18	38	32	89

※平均要介護度4.2

### (4) 入居期間の状況

平成31年3月31日現在

	1年未満	1年～	5年～	10年～	15年～	合計
男性	7	12	1	1	0	21
女性	12	42	10	2	2	68
合計	19	54	11	3	2	89

## (5) 保険者別入居者数

平成 31 年 3 月 31 日現在

保 険 者 名	入居者数
菰野町	40
四日市市	35
鈴鹿亀山広域連合	8
いなべ市	2
津市	2
松阪市	1
名古屋市 (港区)	1
合 計	89

## III. 居宅介護支援事業

I. 居宅介護支援事業の充実を図り、他事業所との連携を強化することで利用者様・ご家族様の望まれる生活を支援する。

- (1) 地域包括支援センターや他事業所との連携を深める取り組みを行ったことにより、利用件数(給付管理を行った利用者数)は、要支援の方(地域包括支援センターからの委託)を含めると、延べ740件、月平均61件となった。
- (2) 利用者数増加に伴い、利用者や業務に関する情報の共有、介護支援専門員間の連携が課題となったため、1月より介護支援専門員及び管理者が出席して週に1回定例会議を開催、困難ケースをはじめとして普段抱えている課題について協議したり、情報交換を行うなどした。

## 居宅介護支援実績推移表 (平成 30 年度)

(単位：人)

介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1	4	4	4	4	4	4	3	3	3	4	5	5
要支援2	5	5	5	5	5	6	7	7	7	7	7	7
要介護1	21	21	21	22	22	22	23	24	24	25	25	27
要介護2	17	16	14	14	14	15	16	18	15	10	13	17
要介護3	10	10	10	9	8	9	10	9	8	7	9	6
要介護4	3	5	3	4	3	4	5	5	5	6	6	5
要介護5	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合計	62	62	57	58	56	56	64	66	62	65	65	67

### Ⅲ. 短期入所生活介護事業・介護予防短期入所生活介護事業

#### 1. 運営の基本方針および事業目標

今年度も介護予防短期入所生活介護利用者はほとんどなかった。しかし地域包括ケアの一端として地域になくってはならない短期入所事業所としての役割を果たすため、行政や他の事業所と連携し緊急利用の依頼には可能な限り対応する姿勢で運営を行った。また、その方の望む生活を維持するために、通常のサービスに加え、お話の傾聴、疼痛緩和、ご家族への連絡調整等を状況に合わせ実施し、できる限り在宅での生活の内容や環境を施設内で作りながら、より安心していただける関係を作り出すことに努めた。また医療、介護、リハビリテーションの提供など、短期入所に伴う施設の様々な機能を利用させていただくことにより、心身機能の向上と在宅での安心できる生活を継続できるよう支援した。その他のサービス提供の面では介護老人福祉施設の本事業に準じて、区別なく提供できた。

#### 2. 具体的な事業報告およびその内容

##### (1) 在宅での生活状況に合わせた個別サービスの提供

- ①事前面接訪問・居宅ケアプラン等による情報の収集により利用者一人ひとりの障害の状況や在宅での生活状況（ベッドの位置や介護用品等）に合わせて、ご家庭での生活を維持継続していく形を基本として、施設での生活環境を作り出した。また、趣味や教養娯楽活動についても、施設にある既存の活動内容だけでなく、ご自宅で実施されていた趣味的活動を可能な限り施設でも続けていただけるよう支援した。さらに、食事、入浴、排泄等介護サービス内容についても、利用者ご本人の意思や嗜好を十分に把握し、希望に沿ったサービスを提供した。
- ②初回利用の方や継続的に当施設の短期入所生活介護を利用されている方のサービス担当者会議には積極的に参加し、他事業所の意見、ご家族の現在のお気持ち等モニタリングを行うことにより、サービスの向上を目指した。

##### (2) 地域との連携を強化し、利用者を支えるトータルな在宅ケアの提供

- ①菰野町社会福祉協議会にて行われる、事業者会議及び地域ケア会議に毎月参加した。
- ②地域福祉の現状や課題を知ることで、在宅におられる利用者へのサービス提供や利用者・ご家族との相談をスムーズに進めることができた。
- ③近隣福祉施設との交流を図ることで、在宅の福祉サービス困難者を地域で助けあい、援助させていただくことができた。

##### (3) ご家族と密接にコミュニケーションを図り、ニーズの把握、効果的なサービス提供に努める。また、ショートステイ利用者の重度化に対応できる体制を整える

- ①ケアマネジャーやご家族様に定期的な訪問や電話を行い、要望や注意事項などを伺った。それにより、個別のサービス提供の満足度向上につなげることができた。
- ②ご希望に応じて理学療法士による専門的なリハビリも提供した。
- ③利用者様の重度化に伴い増加している、ショートステイ中の体調不良やショートステイ

中の死亡に対応できるようご家族様とのコミュニケーションを密にした。具体的には利用者様やご家族様の意向を確実に把握し、また主治医の往診、死亡診断ができる体勢をとることができた。

(4) 柔軟にショートステイを受けられる体制を作る

- ①ご家族に送迎いただければ、朝食時からの受け入れ又は夕食後までの受け入れに対応した。またご家族様からの様々な送迎時間の要望にできる限り対応した。
- ②障害者支援施設の相談員との連携を図り、障害者の方と保護者（ご高齢の要介護者等）が同時に安心して利用できる体制を整えた。また在宅での介護者の急な体調不良などで緊急にショートステイ利用を希望される場合はできる限り受け入れるようにした。

(5) 持ち物の紛失・忘れ物の防止

- ①持ち物の紛失・忘れ物に全職員が責任を持てるようにした。具体的には紛失・忘れ物等の謝罪の電話は必ず担当職員が行い、忘れ物の場合は基本的に当日中に担当職員がご自宅に届ける体制とした。今年度から「ショートステイ忘れ物報告書」に関しては運用を見合わせた。退去時の職員間の声出し確認を徹底し、忘れ物の防止に努める事ができた。また忘れ物で特に多い口腔ケアセット（歯ブラシ、コップ、歯磨き粉等）、薬に関して「利用者所有物管理書」を改訂し送迎担当職員が最終チェックを行うようにすることで、退去チェックと最終チェックのダブルチェックが出来た。これらにより一人ひとりの職員に責任を持たすことができた。

(6) 最終排便日、体調等を確実に把握し、ショートステイ中適切な対応ができるようにする。

- ①ショートステイお迎え時に職員は「ショートステイ利用者 入居時個別確認表」を用い、ご家族様からお伝えいただく「利用期間」「利用申込書の有無」「指示薬の有無」「最終排便日」「体調」「その他特記事項」の聞き忘れを防止した。また便秘時はご家族と連絡を行ない、ご家庭での対応方法の再確認をし対応する事ができた。バイタル測定、入浴サービスの提供を忘れないよう「ショートステイ利用者 入居時個別確認表」を用いチェックした。それにより入居時のバイタル測定、入浴サービスの提供の忘れを防止することができた。

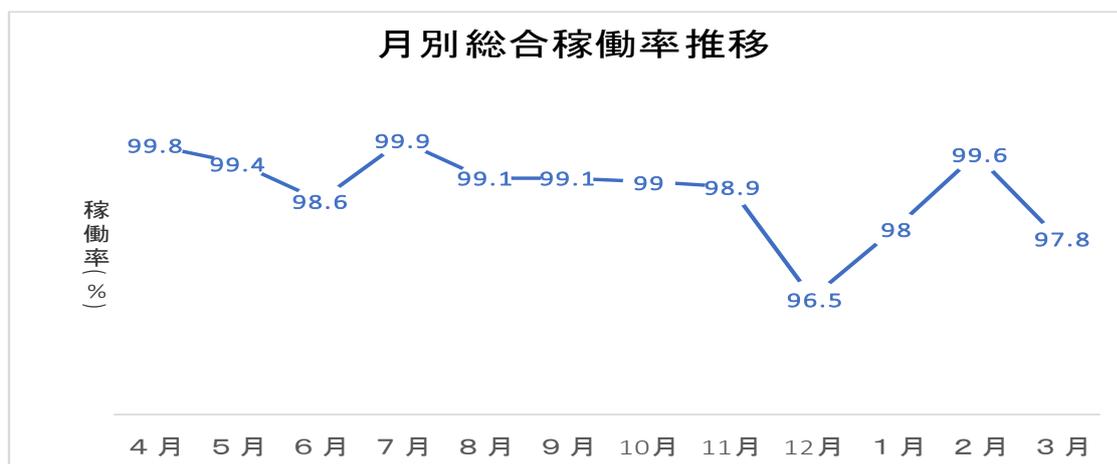
(7) その他

その他は特別養護老人ホームの併設事業であるため、本事業に準じている。

### Ⅲ. 月別利用実績

月別短期入所生活介護利用人数(延べ)

介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 1	9	5	4	3	7	3	4	7	2	5	4	13	66
要介護 2	35	50	48	49	48	43	48	43	39	47	39	47	536
要介護 3	27	37	42	32	44	40	24	18	17	19	16	21	337
要介護 4	121	90	105	92	99	99	112	102	90	92	91	85	1178
要介護 5	20	7	12	8	12	13	15	13	13	13	10	15	151
合計	212	189	211	184	210	198	203	183	161	176	160	181	2268
平均利用者 (1日)	7.1	6.1	7.1	5.9	6.8	6.6	6.5	6.1	5.2	5.7	5.7	5.8	6.2



※ 入居稼働率とは特養・短期入所生活介護を合算した稼働率のことである。

(特養 90 名、ショートステイ 7 名の合計 97 名満床を 100%としている)

※平成 30 年度の年間入居稼働率は 98.8%となり、99%の目標が未達成となった(前年度は 99.1%)。原因としては前年度が高い水準での稼働率であったことと、12月、1月度に退去、入院が多数あり稼働率の低下がひびいた。12月、1月の稼働率の低下の

原因は2ヵ月間で9人の死亡退去、3人の入院が集中したためである。

※近年、高齢者施設（サービス付き高齢者住宅、有料老人ホーム、特養など）が近隣で複数開設されており、入居待機者、ショートステイ利用者が減少傾向にある。また、ショートステイ利用者に関しては、利用者の平均要介護度が低下している。これは要介護度が重くなり介護量が増加すると、以前の様にショートステイやデイサービスを利用して在宅で介護をせず、サービス付き高齢者住宅、有料老人ホーム等に入所していくケースが増えている事が考えられる（サービス付き高齢者住宅、有料老人ホーム等は特養や老健に比べ比較的空きがあり入居しやすい）。

当施設としても、稼働率を維持して運営を安定化させるため、近隣の病院や他事業所と今よりも密に連携していくことが必要である。

# 平成30年度 介護老人保健施設 聖十字ハイツ 事業報告書

## I. 事業内容

### 【介護保険施設サービス事業】

介護保険施設サービス事業（入居）

短期入居療養介護事業・介護予防短期入居療養介護事業

： 定員 100 名

### 【通所リハビリテーション事業】

通所リハビリテーション事業・介護予防通所リハビリテーション事業

： 定員 18 人

## II. 基本方針及び事業目標

医療と介護の役割分担と連携強化を図り、重度の要介護者や認知症の方々に医療・介護サービスを切れ目なく提供し、介護予防・重度化予防に取り組むとともに、地域の要介護者の中核拠点として、通所リハビリテーション・ショートステイ・入居等でリハビリテーションサービスを包括的に提供し、高齢者ができる限り住み慣れた地域で日常生活が営むことができるような支援を行うことを目標とし、以下の取り組みを実施した。

## III. 平成30年度の主な取り組み内容

### <介護保険施設サービス事業（入居）部門>

#### 1. 【内部体制の整理と多職種連携の下での利用者サービスの提供】

- (1) 多職種で構成される委員会を今年も継続開催した。内容としてはリスクマネジメント委員会・感染症委員会・褥瘡委員会・食事委員会・身体拘束廃止委員会について、毎月最終金曜日に報告検討会議を行った。
- (2) 施設長・看護長（師長・副師長）・総主任による会議を定期的に行う。看護師の確保、利用者へのより良い看護の提供等に関し、話し合いを行った。また、看護職員一人一人と面談を行い、現状の思いや改善点を聞く場とした。
- (3) 老健所属のケアマネージャー（3名）と総主任による介護支援専門員会議（ケアマネミーティング）を開始した。これにより施設ケアマネージャーとしての職務を自覚的に行えるようになった。また、介護報酬改定に伴う老健の方向性についても意見を募る場として機能するように進めた。

- (4) 入居検討会議検討会議を毎月開催。スムーズな入居調整について話し合うとともに、入居者の要介護度についても検討。上記ケアマネミーティングとの連動により適切な要介護度をさぐることができるようになり、安定した施設運営の一助とした。

## 2. 【住環境の整備】

- (1) 老朽化した空調機器を交換。細やかな温度設定が実現し、安定した空調稼働が確保できたことで利用者の安全性が大きく確保できた。同時に施設内照明のほぼ全てをLEDに換装するとともに、断熱フィルムをガラス部分に張り付け、大幅な節電につながられた。
- (2) 2階・3階のじゅうたんを木目調のフローリングカーペットに交換した。ご利用者・ご家族より、明るくなり、広く見えると好評をいただいている。掃除がしやすくなったため、感染症予防の観点からも望ましいと考えられる。

## 3. 【安心され満足されるサービスの実施と残存機能を維持向上させる取り組み】

- (1) 認知症ケアでは「利用者の話をじっくり聞く」取り組みを進め、日常の中での生活感覚を呼び起こす取り組みとして、園芸・学習療法等を実施した。
- (2) 新たに言語聴覚士を雇用し、利用者の嚙下や発声等のリハビリテーション領域を新たに進めていった。
- (3) 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を中心に分析・評価を行い利用者一人ひとりの状態や希望に沿ったリハビリテーションを実施し、ADLの向上を目指した。  
基本動作訓練の内容・・・寝返り訓練・起き上がり訓練・座位訓練・立ち上がり訓練  
立位・バランス訓練・移動・移乗時訓練・歩行訓練  
治療中訓練内容・・・基本動作訓練・呼吸・排痰訓練・疼痛に対する訓練・失行・失認に対する訓練・耐久力増強訓練・関節可動域訓練・筋力増強訓練
- (4) 音楽療法士（MT）を昨年に引き続き導入し、音楽を用いたより専門的なリハビリテーション活動を実施した。
- (5) 作業療法士・看護、介護職員・ボランティアと連携しながら、認知症の方へのグループワーク・レクリエーション活動・リトミック等の音楽活動を行い、利用者一人に対してアプローチを深めた。
- (6) 嗜好調査を実施し利用者の食事形態・食事量を分析し、3ヶ月毎に利用者一人ひとりに合った栄養ケア計画を作成した。また、季節感を取り入れた食事提供と週1回以上の選択食を献立に取り入れ、食事の充実に努めた。

(7) リスクマネジメント委員会を毎月開催し、その中で事故事例に分析・検討を行い、事故の原因及び再発防止策を明示し、具体的な対応方法の周知徹底を図った。また、前年度の発生事故を分析し、結果を主任・リーダーと共有した。

#### 4. 【教育・研修】

研修計画を全体的に見直し、その計画に沿って研修を実施・参加した。

##### (1) 内部研修

内部研修については月ごとの開催リストを整理し、年間の研修計画として打ち出した。平成 30 年度は 8 種・計 10 回の内部研修を開催。参加対象者を区分 A（全職員対象）と区分 B（リーダー対象）とに分け、より効果的な研修となるように進めた。

##### (2) 外部研修

平成 30 年度はより積極的に外部研修を計画し、より多くの職員の参加を促した。リーダーシップの向上やスタッフ確保・スタッフ育成を主軸においた様々な研修に主任やリーダーを参加させるとともに、国の推進する介護職員のキャリアパス構築に向け、対象となる研修に初任者・中堅・チームリーダーを参加させた。

また、社会福祉士及び介護福祉士法附則第 6 条に定める介護職員による喀痰吸引研修に 3 名の職員が参加。誤嚥や排痰不良に対するリスクマネジメントのレベルアップを図った。

#### ・職員研修の実施状況

資料 1：＜平成 30 年度 介護看護入居部門 **施設内専門研修**＞

実施日	参加職員	内容
5 月	全職種 (区分 B)	リスクマネジメント研修
5 月	全職種 (区分 A)	感染所予防
6 月	全職種 (区分 B)	認知症ケア研修
7 月	全職種 (区分 B)	身体拘束廃止研修
7 月	全職種 (区分 B)	土砂災害対応研修
10 月	全職種 (区分 A)	インフルエンザ予防研修
11 月	全職種 (区分 A)	褥瘡予防研修

12月	全職種 (区分 A)	感染症予防研修
2月	全職種 (区分 A)	腰痛予防研修
3月	全職種 (区分 A)	身体拘束廃止研修

資料 2： <平成 30 年度 介護看護入居部門 施設外専門研修>

実施日	参加職員	内容
5月9日	新人職員（介護部門）	社会福祉施設等 新人職員研修
5月23・30日	介護支援専門員	介護支援専門員 専門研修課程 I
6月～8月	介護支援専門員	介護支援専門員 資質向上研修
7月～10月	介護職員	喀痰吸引等研修
7月12日	管理栄養士	平成 30 年度 介護報酬改定（栄養関係）について
8月7日	主任（介護部門）	介護リーダーのための会議・ミーティングの強化書
8月25日	介護支援専門員	施設ケアマネジメント研修会
8月23日	主任（介護部門）	介護事業所における少数精鋭のためのスタッフ育成法
9月3日	介護職員	高齢者の骨折、予防について
9月12・13日	介護職員	平成 30 年 キャリアパス対応生涯研修 チームリーダーコース
9月12日他	介護支援専門員	三重県介護支援専門員実務未経験者更新研修
10月3・4日	介護職員	平成 30 年度 キャリアパス対応生涯研修 中堅職員コース
10月10日	主任（介護部門）	介護施設での雇用管理のあり方～基礎編

11月6日	介護職員 (チームリーダー)	組織力向上研修会
11月7・8日	介護職員	平成30年度 キャリアパス対応生涯研修 初任者コース
11月16日	主任(介護部門)	介護リーダー養成研修
11月27日	主任(介護部門)	人が集まり、モチベーションの上がる 研修計画の立て方と助成金の活用
12月1日	看護職員	高齢者ケア現場での間違いだらけの 感染予防
12月13日	主任(介護部門)	ハラスメントのない介護現場を目指して
1月17日	主任(介護部門)	職場の変化に気づいていますか? ～これからの介護事業所での働き方～
1月31日	主任(介護部門)	リーダー層の育成と業務の生産性向上
2月2日	介護職員	「生きる」を支える看取り介護
2月9日	看護職員	認知症ケアと老健看護

## 5. 快適な施設環境の維持

1) 利用者満足度アンケートを8月に実施した。利用者様により満足していただける施設を目指し、施設サービス改善の一環として「第12回ご家族様へのアンケート」を実施。満足度を確認した。

このアンケートの結果は、施設利用者・ご家族・職員が閲覧できるよう、敬老会に合わせて聖十字ハイツ1Fに掲示した(約3ヶ月間)。

また、利用者・ご家族の要望・苦情に関しては1Fに掲示するとともに、改善計画を作成し早急な対応に取り組んだ。

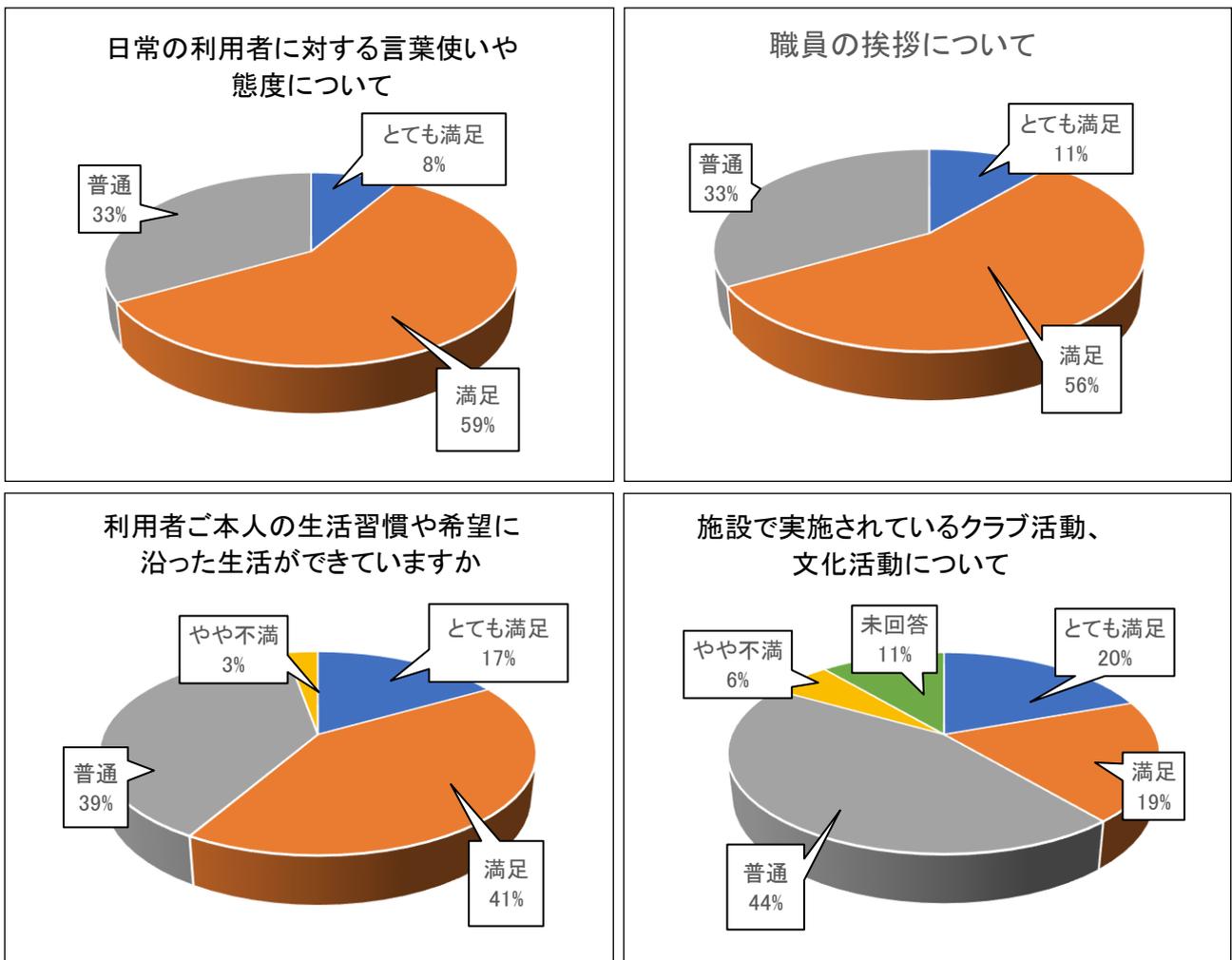
2) また、インフラストラクチャーチェック・防災非難設備の自主チェックを毎月実施し、施設の老朽部分の保守・修理を行った。

【アンケートについて】

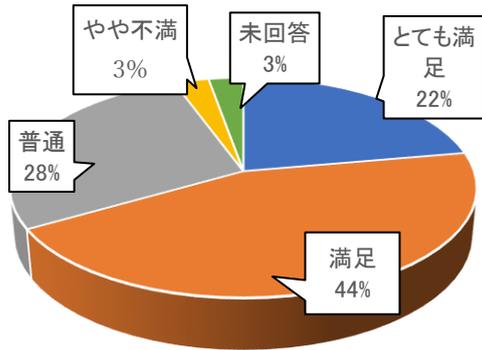
ご利用者様及び、ご利用者のご家族様に対してアンケートを送付。統計を取った。

1. 対象者：平成 30 年 8 月 1 日においてご入居されている利用者様及び、利用者様のご家族様。
2. 回答者数  
 利用者様 : 36 名/98 名 家族様 : 71 名/99 名  
 通所リハビリご利用者・ご家族様 : 31 名/43 名
3. 実施日：平成 30 年 7 月～8 月
4. ご利用者様⇒「職員の態度や言葉遣いについて」といった 10 区分・計 43 項目 について、「とても満足」「満足」「普通」「やや不満」「不満」の 5 段階評価（及び「未回答」の計 6 項目）での採点と、その他の聞き取りを行った。
5. ご家族様⇒「スタッフについて」といった 4 区分・計 18 項目について、「とても満足」「満足」「普通」「やや不満」「不満」の 5 段階評価（及び「未回答」の計 6 項目）での採点と、その他の聞き取りを行った。

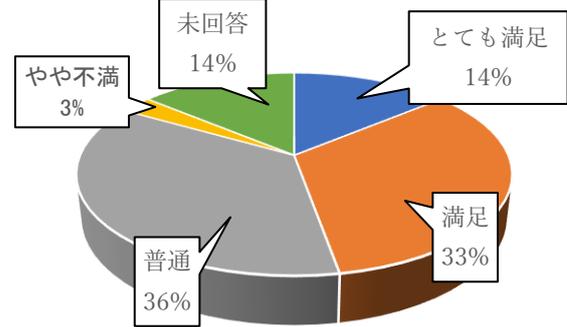
アンケート結果（施設入居者 36 名・主要な項目のみ掲載）



居室内の整理、清掃について

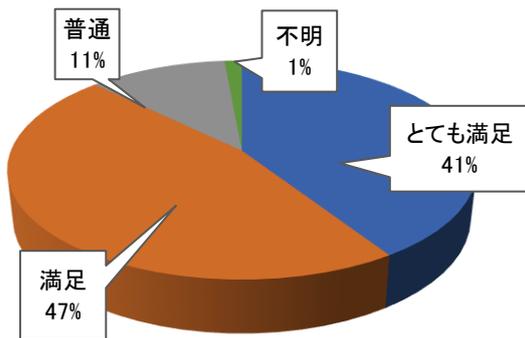


施設で実施されているリハビリテーションの内容について

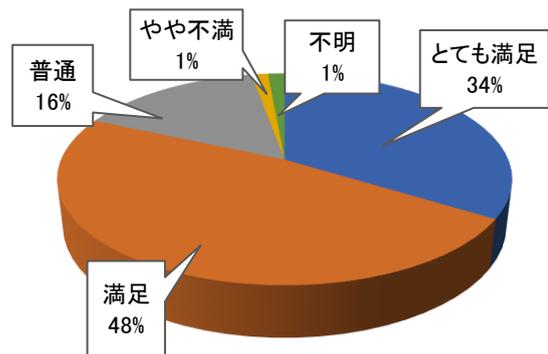


アンケート結果（ご家族 71 名・主要な項目のみ掲載）

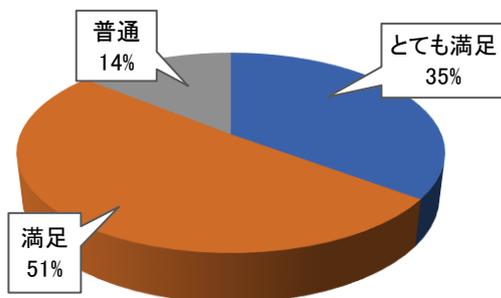
職員の挨拶について



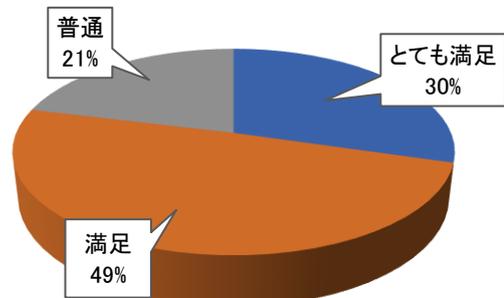
利用者様に対する言葉遣いや態度について

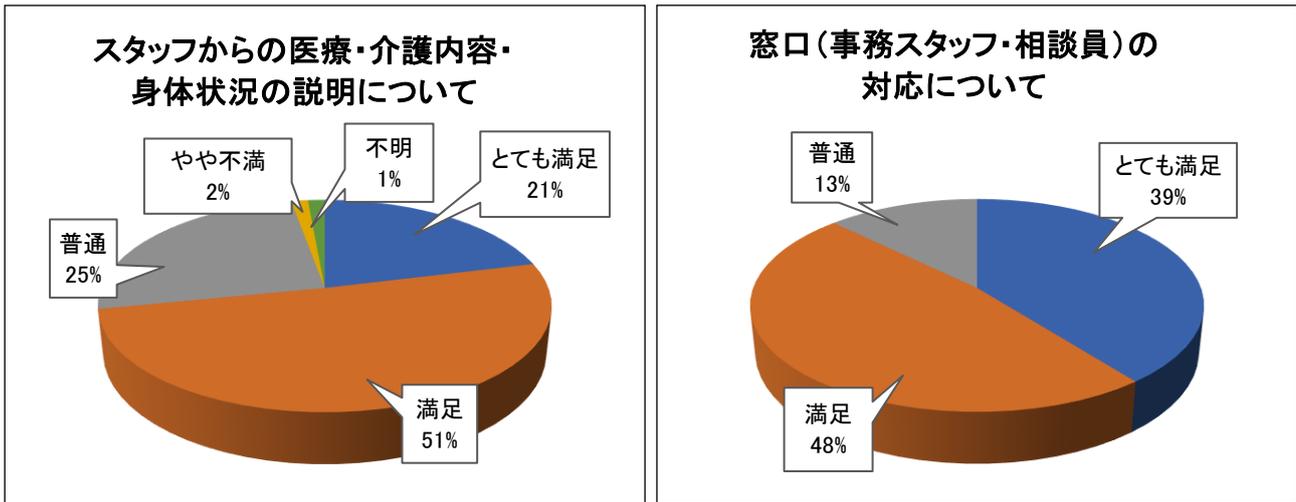


ご家族様に対する言葉遣いや態度について



スタッフに気軽に声をかけることができますか





## 6. 地域との交流

地域交流やボランティア体験・実習を以下のように実施した。

1. 運動会 (10月：園児・地域住民・老人会との交流)
2. 聖十字看護専門学校 (6月：老年看護学実習)
3. 敬老祝賀会 (9月：家族との交流)
4. 西日野学園 (3月：職業体験実習)

## 7. 年間行事

実施月	内 容
4月	入居者お花見
5月	菖蒲湯
7月	七夕・天王祭・盆踊り
8月	納涼会
9月	子供園との交流会
10月	運動会・コスモス見学
12月	柚子湯・入居者忘年会
1月	餅つき大会・新春カラオケ大会
2月	節分・初釜

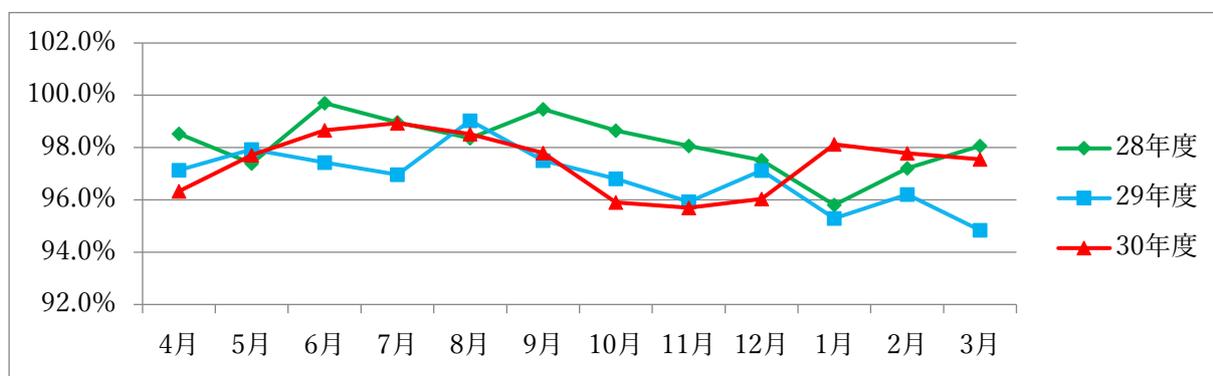
## 8. 広報活動

利用者に聖十字ハイツの理解を深めていただけるよう、施設での行事やレクリエーション風景や職員紹介を写真やイラストを取り入れながら機関誌「もみの木」を年3回（5月・9月・1月）に発行した。

## 9. 介護老人保健施設ベッド稼働率、介護報酬の推移について

入居・ショートステイ合計100床のベッド稼働率については、平成29年度96.5%に対し、平成30年度は97.4%と、0.9%上昇した。また介護保険収入については、対前年比2.6%（1143万円）増という状況になった。

ベッド稼働率推移（入居+短期）



### <短期入居療養介護事業・介護予防短期入居療養介護事業>

聖十字ハイツでは入居100床中、1床をショート用ベッドとして設定しているが、これを2床に増床し、2階・3階に配置した。（入居98床+ショートステイ2床 ※空床利用あり）

#### 1. 【提供サービス品質の均一化】

長らくハイツのショートステイベッドは3階に固定であり、2階では空床利用のみであった。このため、受け入れやご家族連絡に関するサービス提供のノウハウが2階ではあまり蓄積されていないため、同じショートステイ利用者に対するサービスがフロアをまたぐことで違ってしまふことの無いよう、各人のカルテに申し送りのためのページを新設し、フロア相互で情報を更新・共有できるように図った。

#### 2. 【リハビリテーションの提供】

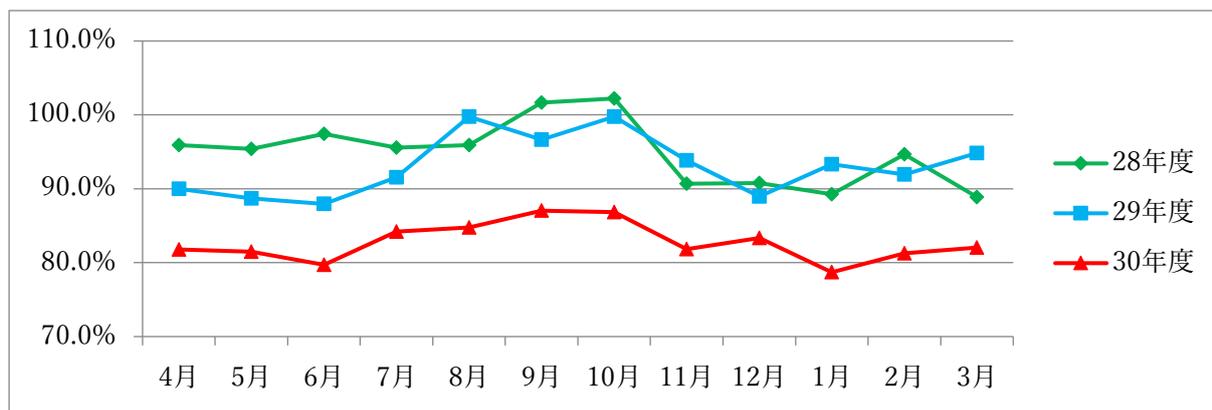
居宅ケアプランに沿ったリハビリテーションを提供した。聖十字ハイツの通所リハビリテーションと併用されている利用者については、通所利用中に担当している理学療法士がショートステイ中にも切れ目なくリハビリをすることで、より満足度の高いサービスにつなげている。

### <通所リハビリテーション事業・介護予防通所リハビリテーション事業>

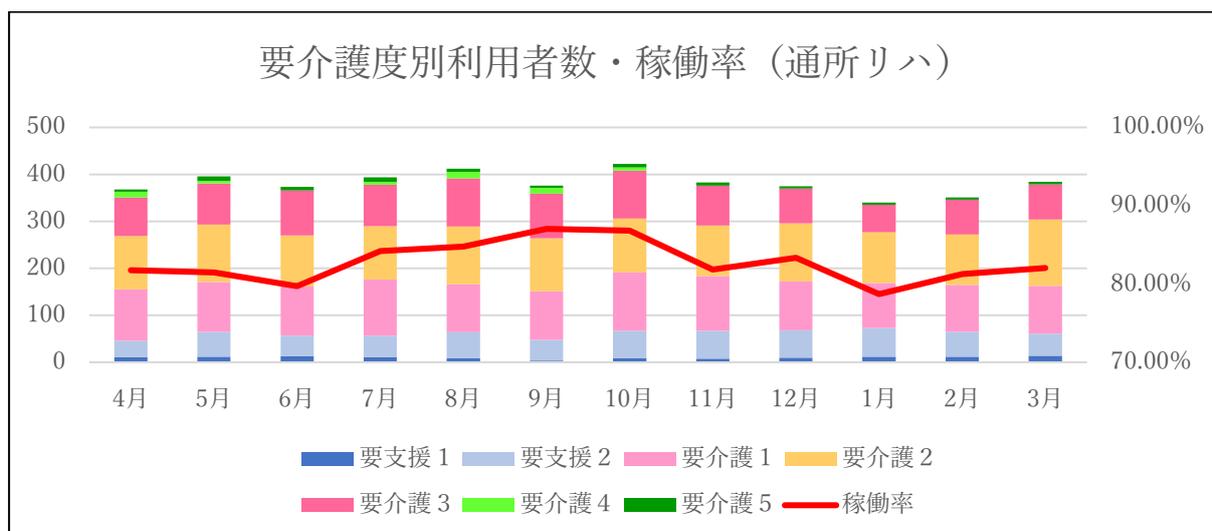
通所リハビリテーションについては、今年度より定員を15名より18名に増員し、専門的な個別リハビリに加え、季節の行事や、楽しみながら効果をもたらすリハビリ内容やレクリエーションを盛り込み、多様なサービスの提供を行った。

年間利用人数については、年間162名（前年比3.7%）増加となったが、定員3名増での計画であるため、稼働率としては昨年度の95.2%より、30年度は82.8%と、12.4%減となった。さらに、要介護度が高い利用者が施設入居や入院となり、新規に利用を開始した利用者については、要支援の利用者が増加したことにより、介護保険収入については、3.2%（157万円）減少した。今後は新たなサービスの内容や、より喜んでいただけるリハ内容を構築するとともに、地域の医療機関、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所とも緊密に連携を取り、要介護度が高い利用者の確保に努めるとともに、通所リハビリ利用時だけではなく、ショートステイ利用時や、在宅での生活時の身体状況へも深くかかわり、継続的な地域での専門的リハビリテーションの提供による生活機能の向上に寄与していく。

稼働率推移（通所リハ）



要介護度別利用者数・稼働率（通所リハ）



# 平成30年度 ケアハウス白百合ハイッ 事業報告書

## I 施設運営の基本方針

入居者の方々の意思及び人格を尊重すると共に、常にその方の立場に立ち、人間性に満たされた必要なサービスを提供することを心掛けた。また高齢化に伴うケアハウスとしての介護、支援の在り方の変化に対応できるよう、各個人のニーズに沿う援助をどのように提供するかを職員全員が共有し、利用者が安心して生き生きと明るく生活していただける施設運営を目指した。

## II 具体的な事業計画

### 1 入居者の特性に配慮した生活空間を提供していく

入居者の高齢化に伴い今まで出来ていたことができなくなった場合でも施設環境を整備することで、利用者の方に満足していただける生活空間を提供していくことに努めた。共有スペースを余暇活動に利用していただけるように、より一層の趣味活動の支援を行うことで心地よいコミュニティを築くことを目指した。具体的には曜日ごとに「うたの会」「組み紐」「カラオケ」などを定期的実施できた。

### 2 健康状態を把握する

心身状態の重度化による医療ニーズが高まっていることから、利用者の健康状態を把握し、状態の変化があれば早期受診を勧め重症化を防ぐよう努めた。また既往歴や疾患だけで判断できない症状が発症することが想定されたため、緊急時にも対応できるよう普段の健康状態の把握に重点を置き、本人、ご家族からいただく医療情報の共有を徹底した。

### 3 感染症・食中毒予防対策の強化

感染の予防に重点を置き、当施設からの発生を避けると同時にやむを得ず発生した場合は、初期対応を確実に実行するよう指導を徹底した。また複合施設であるため他施設への感染拡大防止を目的に利用者の方へ迅速な情報提供をするとともに行動範囲についてご協力いただくよう努めた。

食中毒対策に関しては、施設が提供する食事については品質管理を徹底し、提供後2時間以内の消費を利用者の方にご理解いただくことで厳守した。

入居者の方が購入された食品については施設としての管理が行き届かないため、消費期限内に消費していただくよう促しを図った。

#### 4 入居者との意見交換会を実施し適切な情報提供を行う

日常生活の中で必要な情報発信の場として、各階ごとに意見交換会を年2回実施した。いただいたご意見を運営に反映することで、信頼関係を深めるよう努めた。参加できなかった方へは個別に対応・説明を行い適切に情報提供させていただいた。

#### 5 自立生活を継続していくためにできることを提案していく

ご本人が抱えている病気や介護への不安を軽減できるよう地域包括支援センターや居宅介護支援事業所を中心に連携を図り支援させていただいた。その体制の中で、できる限り慣れ親しんだ場所で生活が継続できるよう介護保険等のサービスを利用しながら生活していただくことができた。

#### 6 職員資質の向上を図る

日々変化していく入居者の多様な福祉ニーズに対応できる人材を育成していくことを目標に施設内研修を行うことで思いやりのある対応を目指すとともに、施設外で行われる研修へ積極的に参加し、専門的な知識習得に努めるように計画していたが、計画通りには実施できなかった。次年度の課題としたい。

#### 7 ボランティア活動を積極的に受け入れていく

利用者一人ひとりが参加しやすい活動を中心にボランティア活動を受け入れ、日中活動を活発にしていくよう運営した。また入居者の方々がどのような活動であれば参加していただけるのか希望調査を実施しコーディネートするよう努めた。

#### 8 経営安定のため稼働率の向上を図る

広報活動に力を入れるとともに、申込者や関係機関へ定期的に連絡を行い入居者の確保につなげ、年間を通して稼働率98%を確保できた。

### III 入居者の生きがい、仲間づくり

#### 1 リハビリ訓練（実施時期：毎週土曜日）

利用者の身体機能の低下を防止することで、より安心して生き生きと明るく生活できるようにするため、PT指導のもとリラックス運動やゴム・竹などを使った「リハビリ訓練」を実施。定期的に体力測定を行うことで、リハビリ効果を実感していただけた。

#### 2 喫茶・歌おう会・映画放映（実施時期：毎週1回～適宜実施）

利用者間の交流機会を食事以外で設けることで、居室の閉じこもりを防ぐ効果があり、入居者様の潜在能力を引き出すこともできた。

生活の質の向上のためにも利用者の方の要望に応じた創作活動や文化活動を中心にボランティアの受け入れを行った。

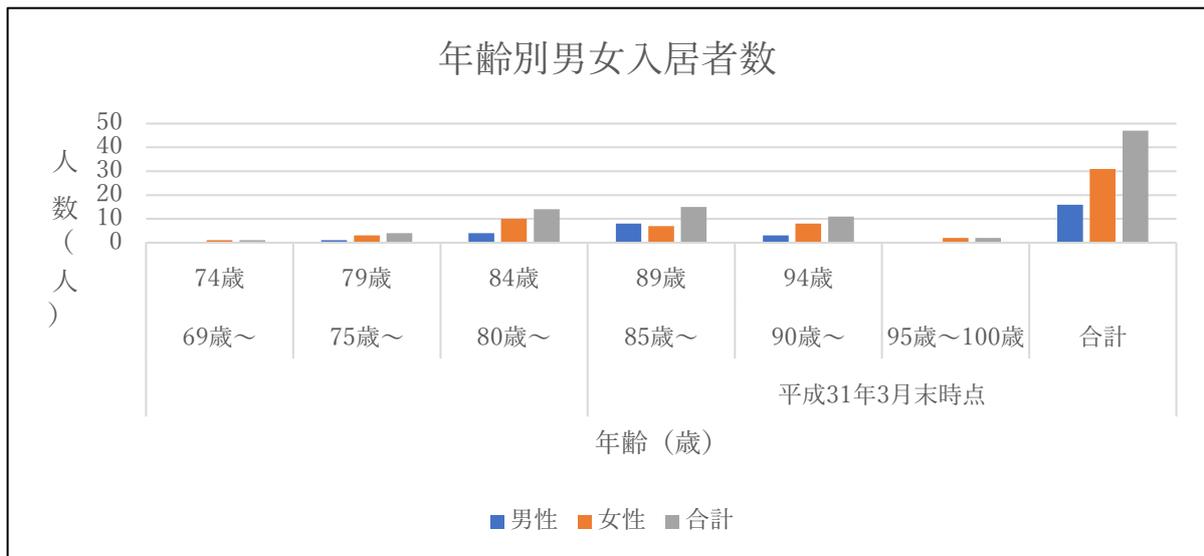
#### IV 入居者データ

##### ◆年齢別データ

年齢別男女入居者数

平成31年3月末時点

	69歳～ 74歳	75歳～ 79歳	80歳～ 84歳	85歳～ 89歳	90歳～ 94歳	95歳～ 100歳	合計
男性	0	1	4	8	3	0	16
女性	1	3	10	7	8	2	31
合計	1	4	14	15	11	2	47

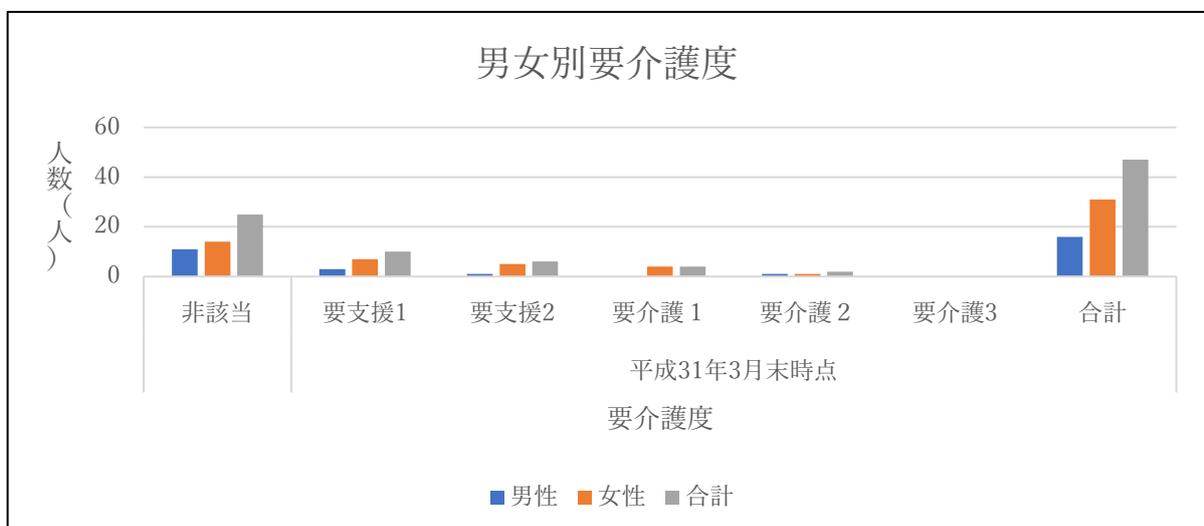


##### ◆要介護度別データ

男女別要介護度

平成31年3月末時点

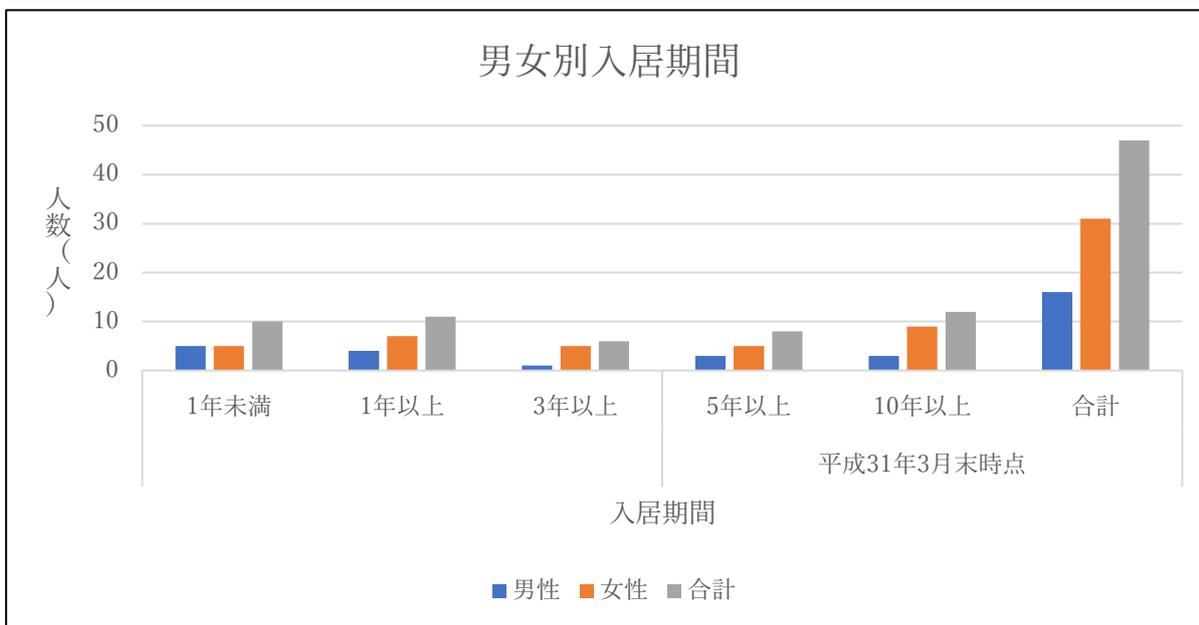
	非該当	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	合計
男性	11	3	1	0	1	0	16
女性	14	7	5	4	1	0	31
合計	25	10	6	4	2	0	47



◆入居期間の状況

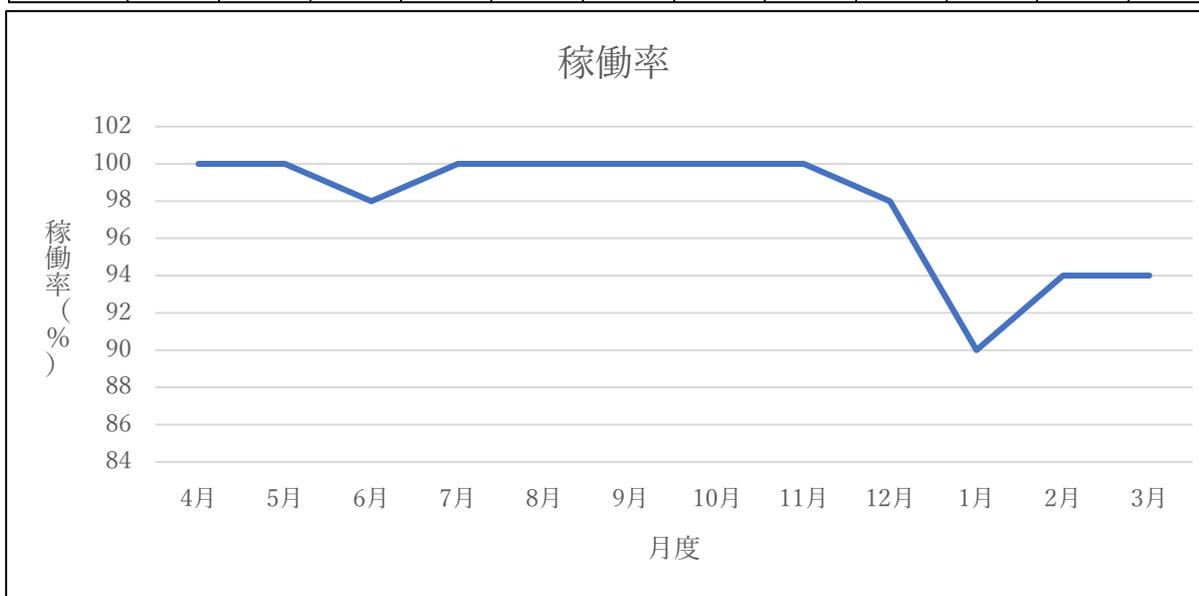
平成31年3月末時点

	1年未満	1年以上	3年以上	5年以上	10年以上	合計
男性	5	4	1	3	3	16
女性	5	7	5	5	9	31
合計	10	11	6	8	12	47



◆H30年度 白百合ハイツ 年間稼働率表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率	100	100	98	100	100	100	100	100	98	90	94	94
人数	50	50	49	50	50	50	50	50	49	45	47	47



# 平成30年度 聖マリアこども園 事業報告書

## I. 事業内容

1. 保育園（保育標準・短時間認定…保育に欠ける子ども対象） 80名
2. 幼稚園（教育標準時間認定保育…保育に欠けない子ども対象） 15名
3. 子育て支援
4. 病後児保育

\*保育園と幼稚園を一体化させた幼児施設であり、子育て相談や親子の集いの場を提供する子育て支援を行うために、子育て支援室、病後児保育などの事業活動を含め、在園児及び未入園児も含め、地域の保護者の子育てと就労の両立を支援するとともに幼児の健全な育成（保育・教育）に努めました。

\*7：30～19：00まで利用可能とし、今後も未入園児の一時預かりなど入園児並びに未入園児の子どもと保護者のニーズに幅広く今後も対応していきます。

\*保護者の方の親としての成長を支援し、子育てや子どもの成長に喜びや生きがいを感じられるような働きかけを行いました。

\*発達支援の必要な子どもについては、個別の支援計画と職員配置をし、在園する全ての子どもたちの困り感を軽減するように努めました。

## II. 運営の基本理念

\*神さまによって与えられた命、一人ひとりの思いを尊重しながら、豊かな人格の基礎を作るために恵まれた環境を整え、心身ともに健やかな成長を今後も見守り、援助していきます。

## III. 基本方針

\*家庭的な雰囲気の中で一人ひとりを大切にし、安心して過ごせる環境と質の高い保育・教育により子どもたちの育ちを保障させていただきました。

## IV. 事業目標

\*小学校就学前の子どもに対する教育及び保育並びに保護者に対する子育て支援を総合的に提供することによって、地域において子どもたちが健やかに育成される環境を整えるといった地域の幅広いニーズに応えていく努力をしました。

## V. 年間目標・教育保育のねらい

「生きる喜びを感じ、分かち合い、心身ともに健やかにのびる子どもを見守る」

- めざすこどもの姿
- ・健康で安全な生活が出来なんでも食べる丈夫な子
  - ・優しい思いやりのある子

- ・いろいろな体験を通して何にでも挑戦する子
  - ・自分の考えが言え友だちの考えも聞ける子
- めざすこども園の姿
- ・子どもの最善の利益を守り、子どもたちを心身ともに健やかに育てる。
  - ・「生きる力」を育て、ともに育ち合えるように援助する。
  - ・一人ひとりの発達を大切に、あそびを通して教育的機能を行き届かせ人間形成の基礎を培う。

以上の年間目標・教育保育のねらいを達成するために職員共通意識のもと業務いたしました。

## 行事計画

## こども園

月	事業内容 (行事)	行事目標 (経験していくこと)	ねらい (子どもの育ち)
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入園式</li> <li>・新しいお友だちとあそぼう会</li> <li>・内科検診</li> <li>・緊急連絡網(絆ネット)</li> <li>・テスト配信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入園を喜び、明るく元気に登園し園生活が楽しいと感じることで集団生活の楽しさを感じた。</li> <li>・異年齢の子どもたちと関わり楽しくあそんだ。</li> <li>・日常生活に必要な基本的な生活習慣を身につけた。</li> <li>・テスト配信を行い緊急時の緊急連絡が確実に保護者に配信されたことの確認ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちとの関わりの中で、相手の存在や立場を理解し思いやりある優しい心を育った。</li> <li>・自分の体や病気について関心を持ち、健康な生活に必要な基本的な生活習慣を身につけた。</li> <li>・災害時に子どもたちの安全を確保し、安心安全な引き渡しを受けられるような意識を高めた。</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元気っ子の集い</li> <li>・野菜の植付け</li> <li>・親子遠足</li> <li>・自然の中であそぶ</li> <li>・個人懇談会</li> <li>・尿、蟻虫検査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢児や先生、保護者との触れ合い楽しんだ。</li> <li>・身近な植物を知り、親しみ土に触れて野菜の苗付けを楽しんだ。</li> <li>・身体や病気について関心を持ち、健康な生活に必要な基本的な生活習慣を身に付けるきっかけとなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団としてのきまりが分かり友だちとのつながりを広め一緒に活動することを楽しめた。</li> <li>・春の自然に気づき関心を持って見たり触れたり植物の不思議さに気づき豊かな心情を育てるのに役立った。</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花の日(聖十字の家訪問)</li> <li>・温泉水プールあそび</li> <li>・保育参観</li> <li>・親子人形劇鑑賞会</li> <li>・歯科検診</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な入居者の方と関わり、信頼感や愛情感じることができた。</li> <li>・水あそびやプールあそびでのルールを確認し、健康で安全に気持ちを開放しながら水あそびを楽しんだ。</li> <li>・保護者の人と一緒にこども園で楽しいひと時を過ごした。</li> <li>・進んで検診を受け、自分の</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人や花に対する愛情を持ち、人権を大切にする心の育ちに繋がった。</li> <li>・積極的にあそぶ中で、運動機能の発達を促した。</li> <li>・園での生活を保護者に見てもらおう中で、楽しく過ごす中にもがんばる気持ちが持てた。</li> <li>・自分の体や病気について関心を持ち、健康な生活に必要な</li> </ul>

		健康に関心を持ちうがいや歯みがきなど予防に必要な活動を進んで行った。	基本的な生活習慣を身につけることの継続的な指導につなげた。
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>七夕会</li> <li>どろんこあそび</li> <li>温泉水プールあそび</li> <li>納涼会 (聖十字の家交流会)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感じたことや思ったこと、想像したことなど色々な方法で自由に表現する。お話の世界を楽しんだ。</li> <li>水あそびやプールあそびでのルールを確認し、健康で安全に気持ちを開放しながら水あそびを楽しんだ。</li> <li>家族の人と一緒に行事に参加し、地域の方と触れ合い地域交流や施設交流を楽しんだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>七夕伝説に関心をもち様々な体験を通して豊かな感性の育ちに繋がった。</li> <li>周りの友だちに対する親しみを深め、集団の中で自己主張し、人の立場を考えながら行動する大切さを学んだ。</li> <li>積極的にあそぶ中で、運動機能の発達を図った。</li> <li>地域社会の中で安心できる居場所を感じた。</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>温泉水プールあそび</li> <li>どろんこまつり</li> <li>年長組お泊り保育</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水あそびやプールあそびでのルールを確認し、健康で安全に気持ちを開放しながら水あそびを楽しんだ。</li> <li>泥にまみれながらダイナミックにあそんだ。</li> <li>自主自立に向けて子どものみで寝食を経験し、花火や夜のお散歩など夜のこども園を楽しんだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>興味や関心、応力に応じて全身を使って活動することにより身体を動かす楽しさを味わい、安全についての構えを身に付けた。</li> <li>園に泊まった喜びや自信、やり遂げた達成感を味わうことができた。</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災訓練</li> <li>敬老の日 (聖十字の家訪問)</li> <li>奉仕作業(土曜日を利用して)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>火事や地震、不審者対策をなぜ繰り返し行っていかを聞き、その重要性を感じた。</li> <li>自分たちとの生活との関係に気づき生活経験を広めた。</li> <li>いろいろな動物に興味・関心を持つ動物を愛し優しさを養った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実際に起こった時のことを考え正しく行動する姿に繋がった。</li> <li>高齢者との関わりの中で信頼感や愛情、優しさを持ち、人権を大切にする心が育った。</li> <li>健やかな育ちを促すため、安全なスペースである園庭で思いきり身体を動かしてあそぶことができた。</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>秋の遠足</li> <li>ハロウィンパーティー (聖十字の家交流会)</li> <li>内科検診</li> <li>交流運動会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な社会や自然の環境と触れ合う中で発見を楽しみ、美しさや不思議さを感じた</li> <li>身近な人と関わり信頼感や愛情を持って生活する機会になった。</li> <li>進んで検診を受け、自分の健康に関心を持ち健康で安全な生活に必要な習慣や態</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>秋の自然に関心を持ち、豊かな心情を育てた。</li> <li>人との関わりの中で信頼感や愛情を持ち、人権を大切にする心が育った。</li> <li>施設の方との交流を通し、交流を喜んでくれる姿を見て愛されていることを実感しいたわりや優しさを育んだ。</li> <li>自分の身体や、病気について</li> </ul>

		<p>度を身に付ける経験となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の方と一緒に園庭整備をし、運動会や日々の園庭でのあそびを充実させた。</li> </ul>	<p>関心を持ち、健康な生活に必要な基本的な生活習慣を身につけることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に運動する中で、運動機能の発達を促るとともに親や祖父母の愛情に気づきそれらの人々を大切にしようとする気持ちを育てた。</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年長組社会見学（町内5歳児とともに東山動物園）</li> <li>・秋のこどもまつり（収穫感謝祭）</li> <li>・さつまいもクッキング</li> <li>・自然の中であそぶ</li> <li>・特別保育自由参観</li> <li>・ふれあいまつり（5才児作品）</li> <li>・交通安全指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団行動の大切さを十分味わい、クラスや町内の5歳児とともに社会見学を楽しんだ。</li> <li>・自然に触れ秋の実りに感謝する気持ちが育った。</li> <li>・幅広い経験することによって想像性と創造性を伸ばし色々な人の働きを受け止め生活経験を広めることができた。</li> <li>・自然との触れ合いの中で発見や感動、驚きながら季節の移り変わりの様子や美しさに気づいた。</li> <li>・地域の方と触れ合いながら、まつりを楽しんだ。</li> <li>・日常生活に必要な交通安全やチャイルドシートの必要性など、基本的な習慣や態度を養った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団行動の楽しさを十分に味わい、共通の行事に参加し、仲間と協調したりする態度を身に着けた。</li> <li>・様々な体験を通して、豊かな感性が育った。</li> <li>・身近な社会や自然事象への関心が高まり、様々なものの面白さ、不思議さ、美しさなどに感動した。</li> <li>・体験を通して、大自然の中にいる自分に気付けたようだった。</li> <li>・地域の方との交流をし、温かさや地元愛を感じ行事を楽しんだ。</li> <li>・交通安全に必要な基本的な習慣、態度を身につけそのわけを知って行動する機会に保護者の方も含めてよい機会となった。</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリスマス会</li> <li>・クリスマスパーティ（聖十字の家訪問）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリスマスの本来の意味を知ることができた。</li> <li>・様々な表現活動を通して、想像性と創造性を伸ばすきっかけになった。</li> <li>・それぞれの場面を担当しこども園の伝統行事を引き継いでいく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な社会や自然事象への関心を深め、美しさ、やさしさ、尊さに対する感覚を豊かにした。</li> <li>・みんなでちからを合わせ1つのことを作り上げる喜びを培った。</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新年のご挨拶（聖十字の家訪問）</li> <li>・世界のあそび（伝承あそび）</li> <li>・もちつき大会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年末年始の伝統的な行事に関心が持てた。</li> <li>・身近な言葉やあそびに親しみ、それに合わせた体の動きを楽しめた。</li> <li>・世界の伝統的なあそびを親しむ中で文字や数字などに興味を持てた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の中で言葉への興味や関心が育った。</li> <li>・人との関わりの中でいろいろな人たちにお世話になっていることを知ることができた。</li> <li>・身の回りに様々な人がいることを知り関わり大切さ、楽しさを味わうことができた。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食自由参観</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>普段の給食風景を保護者の人に見てもらい楽しいひと時を過ごすことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食べ物に興味や関心を持ち、進んで食べようとする気持ちが育ち、食育に対する意識を深め、生きる力を養う機会にもなった</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>節分会</li> <li>冬の自然を見て歩く</li> <li>保育参観</li> <li>特別保育自由参観</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>節分や鬼に関する絵本や話を見たり聞いたりし、異年齢で楽しい豆まきに参加した。</li> <li>早春に向かう自然の変化に気づくことができた。</li> <li>講師の先生から専門分野でのレッスンを受け、興味関心を広げた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話を聞いたり見たり、触れたりして興味・関心が広がった。</li> <li>冬から春への季節の変化に気づき自然の恵みを感じた。</li> <li>何事にも興味を持って取り組み、知識・意欲・態度を育てた。</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別保育自由参観</li> <li>ひなまつり会</li> <li>年長組社会見学 (町内5歳児とともに鳥羽水族館)</li> <li>お別れ遠足</li> <li>お別れ会</li> <li>春の自然を探して遊ぶ</li> <li>個人懇談会</li> <li>終了式</li> <li>卒園式</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講師の先生から専門分野でのレッスンを受け、興味関心を広げた。</li> <li>共に過ごしてきた保育者や友だちとの愛情や信頼関係を分かち合った。</li> <li>身近な社会や自然事象への関心を高め、様々なものの面白さ、不思議さ、美しさなどに感動した。</li> <li>進学、進級の期待感や、家庭や保育者間の丁寧な連携の中で安心して卒園・進級に繋がった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>何事にも興味を持って取り組み知識・意欲・態度が育った。</li> <li>一人ひとりを活かした集団を形成しながら人と関わる力が育った。</li> <li>集団生活の楽しさを味わい、仲間と協力する態度を身につけた。</li> <li>自信を持って毎日の生活を過ごしながら新しい生活に対する期待感を持った。</li> </ul>

★誕生会 … 毎月第3木曜日

★礼拝 … 毎月第1、3月曜日

★避難訓練 … 毎月末月曜日（地震・火災・不審者・土砂災害など）  
消火訓練は毎月行い災害に備えた。

★身体測定 … 身長（4，7，10，1月） 体重（毎月） 頭囲（7，1月）視力（2月3才児以上）測定を行った。

★交通安全日… 毎月10日

11月には、四日市西警察署主催で交通安全教室を行った。

★その他・・・5才児 — 毎月調理実習及び、講師による特別保育として、  
英語・リトミック（40回程度）  
お茶会、陶芸などの体験をした。

4才児 — 年5回程度調理実習及び、講師による特別保育

# 平成30年度 聖マリアこども園 子育て支援事業 事業報告書

**目的** : 子育て相談や親子の集いの場を提供し、保護者への支援を通して子育て力の向上を支援する。

**実施内容** : 毎週火曜日・木曜日 10:00~11:30 子育て支援保育(あそびプログラム作成)  
月~金曜日 午前中 園庭開放  
毎月1回土曜日 9:30~11:30 親子クッキング・ママの趣味作り  
夏季温泉水あそび 10:00~11:00 子育て支援保育  
(7月初旬~8月中旬お盆前まで土日除く平日)

**活動内容** : 4月~3月 毎週火曜日・木曜日 あそびプログラム  
毎月最終週:誕生会(誕生児は手形か足形をとり手作りカード渡す)

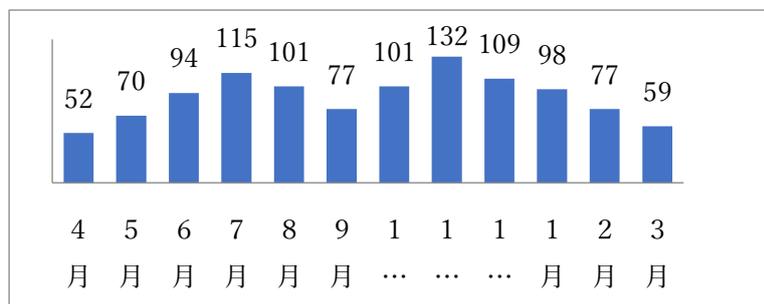
## あそびプログラム内容

- ・玩具・季節制作、身体測定、手・触れ合いあそび、体あそび、在園児とあそぼう、誕生会、園行事参加

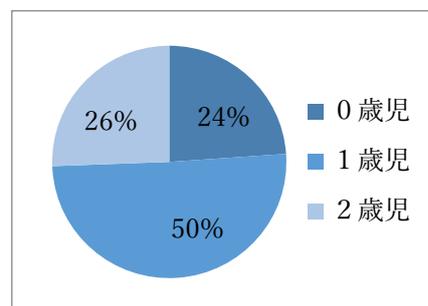
\*風車 \*くらげボトル \*うちわ\*ペットボトルビー玉落とし \*フォトフレーム  
\*ハロウィンおかしバック \*音の出るおもちゃ\*サンタ・トナカイさんかく帽子 \*けん玉  
\*つるし雛 \*各月カレンダー作り

- ◎親子クッキング(5・9・11・1月)・プリザーブドフラワー教室(8・11月)  
消しゴムはんこでエコバック作り(8月)・消しゴムはんこ彫り(1月)  
子育て広場風鈴作り・(6月)・ウッドバーニングでオリジナルプレート作り(7月)  
入園グッズ作り(2月)

## ◎月別参加者人数



## ◎年齢別参加者



- ◎今年度も「在園児とあそぼう会」を取り入れ、0~5歳児までの各クラスと年間を通して交流し、異年齢とふれあう事を目的としたあそびの場を設けた。

- ◎行事参加:盆踊り大会(7月)、交流運動会(10月)、秋まつり(11月)、お餅つき(1月)参加。

- ◎年3回親子リトミック開催。(講師 廣瀬ふさえ先生) (6・9・12月)
- ◎支援室保育だけでなく、園舎周辺への園外保育を取り入れ実施。
- ◎今年度も在園児遠足時、お弁当を持参して園庭でランチを実施。(自由参加3月)
- ◎今年度は、『子育てカフェ』を春夏秋冬に open し、こども園の給食を楽しんでいただきながら食育支援を実施。(5・7・10・2月)
- ◎園医による健診・発育相談(すくすく広場)を年2回実施。(4・10月)
- ◎土曜活動の内容を平日にも実施。(消しゴムはんこ)
- ◎今年度も誕生会には手作りのお祝いおやつを提供。
- ◎助産師さんに来ていただきお話会を実施。(4月)

平成30年度  
聖十字四日市老人福祉施設  
事業報告書

I. 事業内容

特別養護老人ホーム（地域密着型介護老人福祉施設）	定員29名
老人短期入所事業（短期入所生活介護）	定員10名
老人デイサービスセンター （通所介護／介護予防・日常生活支援総合事業）	定員25名
居宅介護支援事業 老人介護支援センター （在宅介護支援センター）及び訪問給食	【四日市市委託事業】

II. 特別養護老人ホーム（地域密着型介護老人福祉施設）の事業報告

平成26年11月に開設したユニット型特別養護老人ホームで、地域に密着した小規模の施設となっている。

全室個室で、トイレ、洗面台を完備し、ご自宅での生活同様にくつろぎのプライベート空間となるよう配慮し、ユニットは9名～10名ごとに分け、スタッフも担当制として、少人数で家庭的な雰囲気やなじみのある環境の下で、ご要望や心身の状況に応じたサービスを提供できるようにしている。

1. 基本方針

「利用者の皆様が安全に、安心して、楽しく生活をしていただけるサービスを提供し、地域の福祉に貢献する」この方針を実現するため、以下のことを実施してきた。

(1) 安全について

「感染症予防委員会」（特養と共通）を行い対策を講じてきた。

ほぼ予定表通りに委員会の開催ができた。感染症発生時のマニュアル見直しを行った。感染症予防のための手袋やエプロン着用を徹底した。

「ノロウイルス、アノキサキス、カンピロバクターなど」に関する施設内研修を行い、職員からのレポート提出を指示した。

今年度も11月から3月まで、手洗い・マスクの着用・来所者の手指消毒を徹底し、ご利用者のインフルエンザの罹患0人であった。

① 「事故防止検討委員会」（特養と共通）の開催。

転倒・ずれ落ち・徘徊：事故12件 ヒヤリ21件

誤薬・誤嚥・処置：事故6件 ヒヤリ9件

表皮剥離・打撲：事故21件 ヒヤリ22件

物品破損：事故4件 ヒヤリ1件

- ② 「褥瘡予防委員会」(特養と共通)の開催。  
 予定通り委員会を開催でき、褥瘡発生予防のためリスクアセスメント評価を行った。  
 対象者は Dr 指示の下、定期的な処置を行い改善に努めた。
- ③ 「身体拘束廃止委員会」(特養と共通)の実施。 身体拘束0人。

(2)「楽しく」について

ご利用者の方にとって、食事は大きな楽しみとされている。個々の希望に応じた食事形態はもちろん、食べられないものはお聞きし、代替のメニューとして提供している。  
 定期的な行事食を計画し、平成30年度は以下のメニューを提供した。

5月	こどもの日ちらし寿司	大晦日	年越しソバ
7月	七夕そうめん	元日	お正月 おせち
8月	お盆 おはぎ	2月	ひなまつり うなぎチラシ
9月	秋分の日お彼岸 おはぎ	3月	節分 ちらし寿司
10月	秋の松茸ごはん	3月	春分の日 お彼岸 おはぎ
12月	クリスマス照り焼きチキン ケーキ・鶏肉のキャセロール		

2.行 事

『田園珈琲店』を毎月1回、地域交流スペースにて開催し、入居者、ショートステイご利用者はもちろん、事前にポスターにて予定を周知させていただき、ご家族も一緒に楽しんでいただくことができた。

4月	桜お花見ツアー(朝明高校)
6月7日	あじさい見学(北勢町 万葉の里公園)
8月4日	田園喫茶 夏祭り 職員がハッピーを着て、かき氷、たこ焼き、お好み焼き、焼きそば等「縁日」を楽しんでいただいた。
9月17日	敬老の日祝賀会 入居者全員に記念品と感謝状を贈呈。 リズムメイト様による演奏と腹話術や手品のショーを楽しんでいただいた。
10月11日	コスモス見学(菰野町)
12月9日	フラダンス発表会 海外でも活躍されているフラダンスの先生と生徒さんが一緒にダンスを披露してくださった。
2月3日	節分豆まき 職員が赤鬼に扮し、豆まきを楽しんでいただいた。
3月	梅まつり見学 いなべ市の梅まつりへドライブ

### 3.外出

4月の桜を皮切りに、6月あじさい、10月コスモス等、外出に不安のない方に参加していただいた。

また、ご希望されるご家族には同行していただき、一緒に楽しんでいただくことができた。

### 4.資料

#### (1)入居状況 平成30年度

(下記人数は各月末日時点の数字)

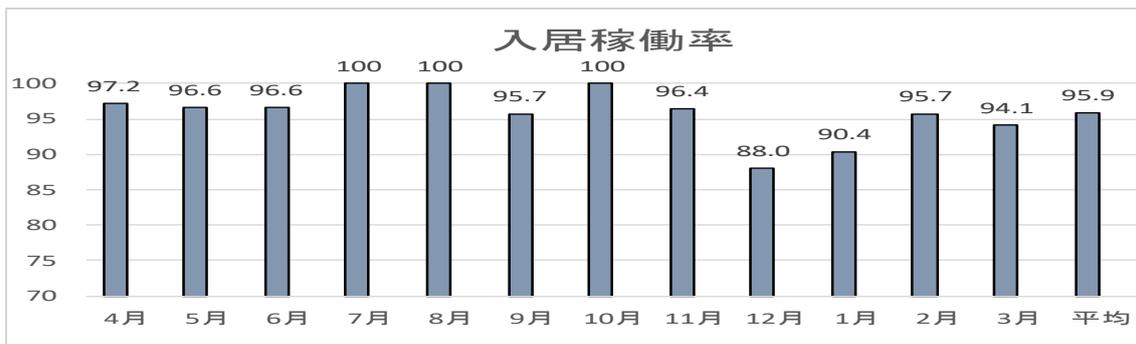
性別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男性	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
女性	24	23	23	24	24	23	24	21	21	22	23	21
合計	29	28	28	29	29	28	29	26	26	27	28	26

#### (2). サービス延べ利用人数 (人) 入所

(平成30年度) 稼働率

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
定員		29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	
延べ 利用 人数	1	90	62	60	62	62	60	62	60	62	62	56	62	760
	2	120	155	150	155	155	127	93	90	93	93	84	93	1,408
	3	180	186	180	186	186	184	279	252	272	317	308	318	2,848
	4	240	248	240	217	217	210	217	208	205	186	168	186	2,542
	5	240	232	210	279	279	251	248	228	161	155	161	186	2,630
	合計	870	883	840	899	899	832	899	838	793	813	777	845	10,188
稼働率%		97.2	96.6	96.6	100	100	95.7	100	96.4	88.0	90.4	95.7	94.1	95.9%

入居の稼働率は95.9%で、年間稼働率目標98%に届かなかった。



#### (3). 年齢分布

年代	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
70歳代	6	5	5	6	6	6	5	4	4	4	4	4
80歳代	19	19	19	19	19	18	18	15	15	15	14	13
90歳以上	4	4	4	4	4	4	6	7	7	8	10	9
合計	29	28	28	29	29	28	29	26	26	27	28	26

## (4). 平均年齢

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男性	81.3	81.4	81.5	81.6	81.6	81.7	81.8	81.9	81.0	80.4	80.5	80.6
女性	85.4	85.5	86.1	85.7	85.8	86.1	86.1	86.8	87.1	88.3	88.5	88.6
合計	84.7	84.8	85.3	85.0	85.1	85.4	85.4	86.0	85.8	86.8	87.0	87.1

## (5). 要介護度分布

要介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護1	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
要介護2	4	5	5	5	5	4	3	3	3	3	3	3
要介護3	6	6	6	6	6	7	9	9	9	11	11	9
要介護4	8	8	8	7	7	7	7	6	7	6	6	6
要介護5	8	7	7	9	9	8	8	6	5	5	6	6
合計	<b>29</b>	<b>28</b>	<b>28</b>	<b>29</b>	<b>29</b>	<b>28</b>	<b>29</b>	<b>26</b>	<b>26</b>	<b>27</b>	<b>28</b>	<b>26</b>

## (6). 平均要介護度

要介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
合計	3.5	3.5	3.5	3.6	3.6	3.5	3.6	3.5	3.4	3.3	3.4	3.4

## (7). 居住地区別分布 (四日市市) (平成31年3月末日現在)

地区名	人数	地区名	人数	地区名	人数
保々地区	15名	下野地区	2名	富田地区	2名
海蔵地区	1名	桜地区	1名	常盤地区	
県地区	2名	三重地区	3名	小山田地区	

## (8). 月別入居者数

(平成30年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月末人数	29	29	28	29	29	28	29	26	26	27	28	26
入居	0	0	0	1	0	1	1	1	2	1	1	0
退居	死亡	0	1	0	0	0	2	0	4	1	0	2
	入院	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	他施設へ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

今年度は、体調を崩され死亡退居される方が多くあり、入居が集まらなかった。

## 5. 研修の状況

5月～7月 食中毒・感染症予防研修

8月 「身体拘束研修」

11月16日 「感染症対策研修会」(2名参加)

## 6. 運営推進会議の開催

2 カ月毎に、ご家族、地域の民生委員、市役所介護高齢福祉課、北地域包括支援センターの方々においでいただき、現況報告、活動内容の報告を行った。

### 開催日

平成 30 年 4 月 24 日・6 月 22 日・8 月 28 日・10 月 25 日  
12 月 18 日・平成 31 年 2 月 22 日

## 7. 年間 延べ面会者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	282	308	276	275	303	252	262	152	192	182	182	253	2919

毎日、多くのご家族様や知人の方の面会がり、朝は7時から夜は19時くらいまで、ご家族のお仕事前後にお寄りいただいた。年間延べ 2,919 名 1 日あたり 8 名のご訪問があった。

## 8. 法人ホームページのブログ

ホームページ「施設の四季だより」に、行事ごとの写真を多く掲載した。

## 9. ユニットごとのイベント

平成 30 年度は、ユニットごとに少しずつではあるが、独自の企画で動き出すことが出てきた。

6月20日 かき氷（くすのき）

9月27日 いちごプリン作り（くすのき）

たこ焼き（さるびあ・はなしょうぶ合同）

12月7日 おやつレク たこ焼き・カステラ（はなしょうぶ）

12月20日 クリスマス会（くすのき）

1月31日 鍋パーティー（くすのき）

## II. 老人短期入所事業（短期入所生活介護）の事業報告

### 1. 事業内容全般

地域密着型特別養護老人ホームに併設された短期入所生活介護施設である。

特養と同様、地域に密着した小規模の施設で、全室個室、トイレ、洗面台を完備している。ショートステイ専用10名のユニットは、担当スタッフによる、少数で家庭的な雰囲気になじみのある環境の下でご要望や心身の状況に応じたサービスを提供できるよう配慮されている。

### 2. サービスの実利用人数（人） 短期入所生活介護（平成30年度）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
定員		10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	-
実 利 用 人 数	支	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1	2	3	2	3	3	5	4	4	5	4	5	5	45
	2	5	4	3	5	2	2	3	2	2	2	2	2	34
	3	6	5	6	5	6	8	5	4	1	2	1	3	52
	4	5	4	4	3	2	2	2	4	4	2	2	2	36
	5	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	2	12
	計	19	17	16	16	14	18	15	15	13	11	11	14	179
稼働率%		75.0	71.9	80.0	69.0	69.0	73.9	54.8	67.7	49.4	41.3	46.8	64.8	63.1

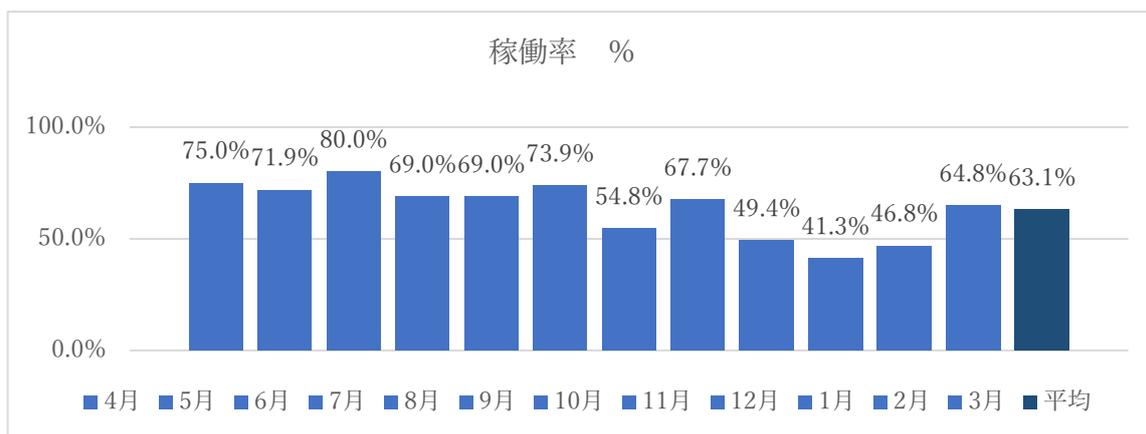
目標と掲げていた年間稼働率目標の90%には大きく届かなかった。

年間の平均稼働率は、63.1%となった。

近隣の病院、居宅介護支援事業所に、定期的に施設の紹介を行ってきており、利用者数も少しずつ増えてきている。併設の特養に入居や他施設入居もあり、利用率は急な下降をしているが、新規利用者の受け入れもあり少しずつ回復してきている。

緊急対応で、新規申込日にお受け入れするケースも対応しており、地域貢献できることにもなっている。





### Ⅲ. 老人デイサービスセンター 聖十字保々在宅介護サービスセンターの事業報告

1. (1) 通所介護事業 (定員 25名)

(2) 介護予防・日常生活支援総合事業

2. 施設サービスの目的

地域で生活される要支援・要介護の高齢者の方々に対して通所介護サービスを提供し、ご利用者の社会的孤立感の解消および生活機能の維持・向上を図るとともに、ご家庭で介護される方の負担軽減を図ることを目的として、利用される皆様にご満足いただけるサービスの提供に努めた。

3. 通所介護サービス

(1) サービス内容

送迎 健康管理 入浴 排泄 食事 おやつ リハビリ体操 レクリエーション  
理髪 (月1回)

(2) レクリエーション活動

毎日実施するレクリエーションでは、新規のメニューを増やすとともに、レ  
レギュラーメニューを毎日アレンジして計画的に実施した。

- ・脳トレ・色合わせ・缶転がし・ボールゲーム・シートでポン・ローラー大作戦
- ・魚釣り・タオル投げ・風船投げ・輪取り・ボールすくい・カーリング
- ・ボーリング・ピンポン・ゴルフ・ロープウェイ・おにぎりの中身は？
- ・たまごゲーム・投げない輪投げ

(3) ボランティア

下記の内容のボランティアの受け入れを行い、利用者サービスの向上にご協力いただいた。

楽器演奏・歌・体操…地域住民を招待

(リズムメイトの会：四日市ボランティア)

ダンス・交流 (保々地区民生委員有志ボランティア)

奉仕作業・訪問 (保々中学校3年生生徒)

千羽鶴贈呈 (保々地区社会福祉協議会・保々小学校3年生児童)

朝明高校訪問 (朝明高校生徒との交流会)

(4) 年間行事

4月	「花見 (桜見学)」	10月	「カード入れ作り」
5月	「ドライブ」	11月	「ボーリング大会」
6月	「ビーズ飾り作り」	12月	「クリスマス会」
7月	「ドライブ」	1月	「初詣」
8月	「夏祭り (アイスcream)」	2月	「節分 (つな引き)」
9月	「ミニ運動会」	3月	「お楽しみ会 (お菓子バイング)」

(5) 食事・おやつの提供

栄養摂取に配慮しながら、季節の食材を取り入れ、おいしい食事の提供に努めた。また、適宜「手作りおやつ」を提供し、ご利用者の皆様に喜んでいただいた。さらに市販の菓子を購入・日替わりで提供した。

(6) サービス向上のための取り組み

毎月、デイサービス会議 (業務改善会議) を実施した。

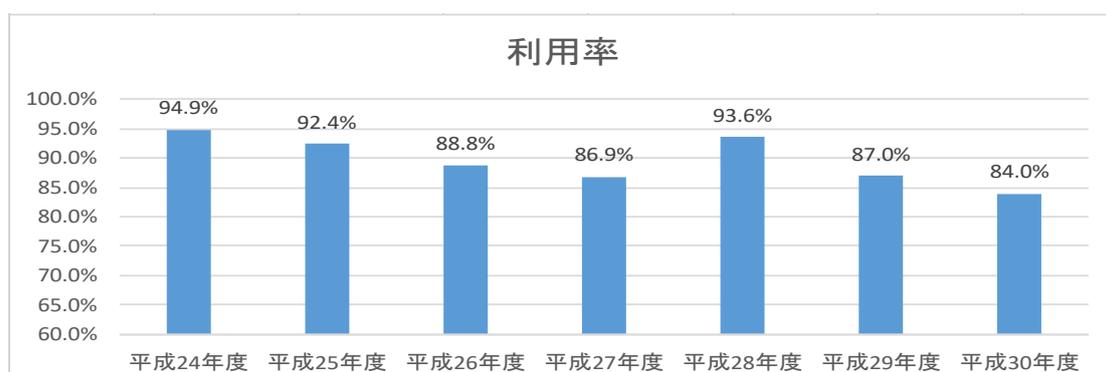
(7) 個別懇談会の実施 (ご利用者のご家族)

4. 通所介護利用状況 定員 25 名/日

(1) 年間延利用者数

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通所介護	349	380	398	390	391	362	386	376	350	314	292	284	4,272
予防通所介護	180	195	197	185	196	172	171	188	166	164	148	162	2,124
計	529	575	595	575	587	534	557	564	516	478	440	446	6,396



利用の終了 (ショートステイ・入居や死去) が多くあり、新規利用開始を上回り、利用率が下がってしまった。年間利用者は、20.7 人/日となった。新規利用者の獲得を進めている。

(2) 平成30年度・年間実利用者数 単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通所介護	29	30	31	30	31	31	30	30	28	29	27	24	350
予防通所介護	24	26	26	27	26	25	26	27	25	25	23	24	304
計	53	56	57	57	57	56	56	57	53	54	50	48	654

(3) 平成30年度・年間介護度（構成割合）

介護度	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
実利用者内訳	304	187	48	60	50	5	654
構成割合	46.5%	28.6%	7.3%	9.2%	7.6%	0.8%	100%

年々、要支援が増えてきており、要介護者の割合が少なくなってきている。

5. 職員研修の状況

(外部) 3/23 四日市市総合事業説明会

(内部) 3/22 人権研修 講師 人権プラザ小牧 館長 坂倉 健吾 氏

IV. 聖十字保々在宅介護サービスセンター 居宅介護支援事業の事業報告

1. 事業の目的

ご利用者が、その方らしくご自宅で過ごせるために、ご本人・ご家族と相談しながら、毎月1回の訪問・モニタリング・アセスメントの実施を行い、ご本人の状況に合わせた、望まれる最良のサービスの構築・展開を図った。

また、ご本人、ご家族からの依頼により要介護認定の申請代行をおこなうとともに、ご本人、ご家族共にご満足いただけるケアプランの作成を行った。

他の事業者との連携を緊密に図るため、サービス担当者会議を行った。

2. 研修実施状況

(1) 四日市市介護保険サービス事業者連絡会居宅介護支援部会（1名出席）

4月20日・7月20日・10月19日・2月22日

(2) 平成30年度 三重県地域包括支援センター職員【課題別研修】

「地域づくりに必要な地域診断・地域アセスメント」

日時：平成30年2月1日（金）10：00～16：00

(3) 平成30年度 第3回 多職種連携事例検討会

「薬剤師の役割と個人情報の取り扱い」

日時 平成30年2月13日（水）19：30～21：00

(4) 平成30年度 第3回北地域勉強会

「高齢者虐待の基礎的理解と支援方法について～相手も自分も守るため」

平成30年2月26日（金）13：30～15：00

(5)人権研修

「わたしのものさし」高齢者の人権問題について考えよう。

講師 人権プラザ小牧 館長 坂倉 健吾 氏

日時 平成31年3月22日(金) 17:00~18:00

3. 年間介護認定代行申請者数 (新規、更新、変更)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
男性	4	2	2	5	1	1	1	0	4	3	0	1	24
女性	2	1	2	1	4	2	3	2	2	8	1	5	33
計	6	3	4	6	5	3	4	2	6	11	1	6	57

4. 居宅サービス計画(ケアプラン)実績

新規利用者の受入れを積極的に行った。年間延べ利用者数は438人となった。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
男性	9	9	9	8	10	10	10	10	9	10	9	9	112
女性	32	33	30	29	27	26	27	26	26	24	24	22	326
計	41	42	39	37	37	36	37	36	35	34	33	31	438

V. 老人介護支援センター(保々在宅介護支援センター)の事業報告

- (1) 在宅介護相談事業 (四日市市委託事業)
- (2) 訪問給食事業 (同上)

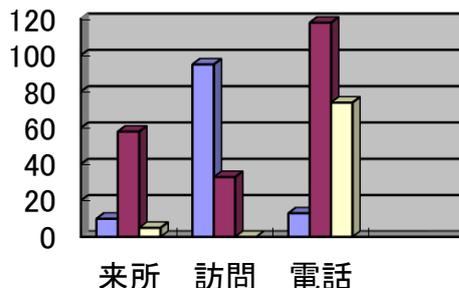
1.事業の目的

四日市市の委託を受け、地域の福祉相談窓口として、訪問・電話による相談業務を実施した。また、地域の高齢者の実態把握に努めるとともに、地域の1人暮らし高齢者の方々への見守りをするため訪問給食を実施した。

2.相談業務の実施状況

(1) 高齢者関係

	本人	家族	その他	合計
来所	10件	58件	5件	73件
訪問	95件	33件	0件	128件
電話	13件	118件	74件	205件
合計	118件	209件	79件	406件



(2) 障がい関係

(身体障がい)	来所	訪問	電話	合計
本人	1件	0	1	2件

3. 地域との連携

- (1) 保々地区民生委員連絡会議に出席 年間 12回出席
- (2) 人権プラザ小牧との情報交換 年間 2回(10/20・3/12)
- (3) 人権プラザ小牧運営協議会 年間 2回(5/31、10/4、3/2)
- (4) 福祉協力員研修会 認知症サポーター養成講座(6/15)

平成30年度より、保々在宅介護支援センターにも「医療職の相談員」が配置されることになり、10月より「福祉職(社会福祉士)」、「医療職(看護師)」の2名配置ができた。今後は、尚一層の地域福祉の拠点としての役割を担っていきます。

4. 在宅介護支援センター運営会議の開催

- 実施日 平成31年1月22日
- 出席者 四日市市役所介護高齢福祉課・四日市市社会福祉協議会  
四日市市北地域包括支援センター・連合自治会会長  
地区老人会副会長・地区社会福祉協議会  
地区民生委員会長、副会長・市民センター館長  
人権プラザ小牧・地域マネージャー・当施設管理者・在介担当者

5. 地域行事への参加

- 人権プラザ小牧運営協議会 (年間3回 5/31、10/4、3/2)
- 敬老慰安会 平成30年9月17日
- 保々地区文化祭 平成30年11月4日

6. 認知症サポーター養成講座 開催

- ①日時 平成30年6月15日
- 対象 保々地区社会福祉協議会・民生児童委員・福祉委員
- 場所 保々地区市民センター2階 会議室
- ②日時 平成30年10月3日
- 対象 保々小学校 3年生
- 場所 保々小学校 体育館

今年は、保々小学校3年生の年間授業として、高齢者の福祉を学び、その中でも認知症を学ぶ機会を、一緒に関わることができた。

7. 平成 30 年度地域介護予防普及啓発事業 (保々地区)

	実施日	実施時間	実施場所	講義内容	参加人数
1	6/27(水)	10:00～11:00	やすらぎ荘	膝痛の予防	10名
2	7/9(月)	10:00～11:00	高見ハイツ会館	膝痛の予防	15名
3	8/7(火)	10:00～11:00	西村町上条公会所	高血圧症の予防	38名
4	9/10(月)	10:15～11:15	高見ハイツ会館	高血圧症の予防	16名
5	9/20(木)	10:00～11:40	円覚寺	骨粗鬆症の予防	35名
6	9/28(金)	9:40～10:40	西村町新田公会所	高血圧症の予防	33名
7	10/15(月)	14:00～15:00	小牧町北公会所	高血圧症の予防	12名
8	10/23(火)	13:45～15:00	市場町公民館	高血圧症の予防	31名
9	10/26(金)	10:00～11:10	西村町営農センター	高血圧症の予防	26名
10	11/12(月)	14:00～15:00	小牧町北公会所	骨粗鬆症の予防	18名
11	11/19(月)	10:00～10:30	小牧町南公会所	高血圧症の予防	44名
12	3/20(水)	10:00～11:00	やすらぎ荘	ウォーキングについて	9名

合計 288 名

8. 研修等実施状況

①キャラバンメイト養成講座

講師 三重県認知症ケア専門士 山本 陽子 氏

うの森クリニック 院長 山田 幸典 氏

日時：平成 30 年 11 月 25 日 9:30～16:30・場所：四日市市総合会館 7 階

②平成 30 年度 三重県地域包括支援センター職員【課題別研修】

「地域づくりに必要な地域診断・地域アセスメント」

講師 愛寿苑在宅介護支援センター コミュニティワーカー 下島 礼子 氏

日時：平成 30 年 2 月 1 日 (金) 10:00～16:00 場所：高田会館 大ホール

③平成 30 年度 第 3 回北地域勉強会

「高齢者虐待の基礎的理解と支援方法について～相手も自分も守るために」

講師 四日市市北地域包括支援センター 社会福祉士 中嶋 章人 氏

日時 平成 30 年 2 月 26 日(金)13:30～15:00・場所：富須原地区市民センター 2 階

④人権研修

「わたしのものさし」高齢者の人権問題について考えよう

講師 人権プラザ小牧 館長 坂倉 健吾 氏

日時 平成 31 年 3 月 22 日 (金) 17:00～18:00

場所 聖十字保々在宅介護サービスセンター

9. 保々地区地域ケア会議の開催

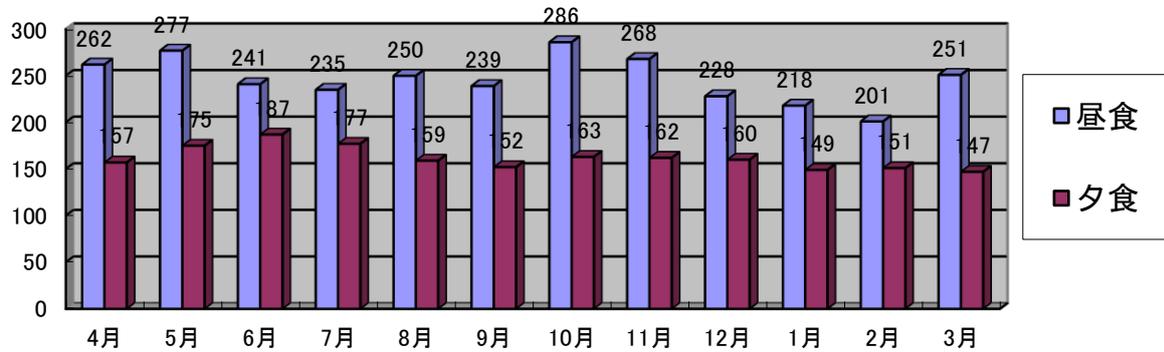
実施日 平成 31 年 1 月 22 日

参加者 四日市市役所介護高齢福祉課・四日市市社会福祉協議会  
 四日市市北地域包括支援センター・連合自治会会長  
 地区老人会副会長・地区社会福祉協議会・民生委員会長・副会長  
 市民センター館長・地域マネージャー・人権プラザ小牧  
 聖十字保々在宅介護支援センター

10. 訪問給食実施状況

訪問給食では、配食時に体調不良を発見し、救急への通報やご家族への迅速な連絡と適切な対応ができた。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
昼食	262	277	241	235	250	239	286	268	228	218	201	251	2,956
夕食	157	175	187	177	159	152	163	162	160	149	151	147	1,939
計	419	452	428	412	409	391	449	430	388	367	352	398	4,895



# 平成30年度 菰野聖十字の家診療所 事業報告書

## I. 事業内容

外来診療：内科、精神科、心療内科  
法人内施設利用者の健康管理  
法人職員の健康管理・健康相談

## II. 平成30年度の主な取り組み

### 1. 施設利用者の診療、健康管理の充実

併設の特別養護老人ホーム、障害者支援施設、介護老人保健施設、ケアハウスの利用者の方々に、適切な医療サービスを提供し、治療および健康管理の増進に努めた。

### 2. 医療・福祉の連携強化

各施設の看護職員、介護職員とも緊密に連携し、医師の診察・治療に加え、日常の健康指導やリハビリ、生活指導を積極的に実施し、より効果的かつ継続的な福祉医療サービスの提供に努めた

### 3. 感染症予防への積極的取り組み

施設内利用者、さらには職員に対し、インフルエンザ等の予防接種を実施し、感染症予防に努めた。

### 4. 医療報酬制度に即した医療体制の確立を図る

診療報酬の改定による制度の変化に対して、常に情報を収集し、柔軟かつ敏感に対応できるよう努めた。

### 5. 医療体制の強化

常勤医師（精神科）、非常勤医師（脳神経外科）の2名体制により多岐にわたる専門的診療体制を整備した。